

第4章 調査の成果とまとめ

縄文時代後期の集落様相

横壁中村遺跡では、縄文時代後期と比定した住居が53軒を数える。調査区中央を北流する山根沢東側で検出された住居が17軒、伴う列石6基、配石5基、山根沢西側で検出された住居が36軒、伴う列石1基、配石13基である。ここでは、横壁中村遺跡全体を踏まえ、山根沢東側で検出された縄文時代後期の集落様相について述べていきたい。

山根沢東側で検出された縄文時代後期住居は、18区で5軒、19区で2軒、28区で4軒、29区で6軒の計17軒あり、調査面積の狭い29区では集中するように検出されている。時期は、確認できるものすべてが称名寺1式期から堀之内1式期までに収まり、堀之内2式期や加曾利B式期の住居は確認されていない。時期別では、称名寺1式期が3軒、称名寺2式期が5軒、堀之内1式期が7軒と、堀之内1式期がやや多い。遺存状態が悪く、縄文時代後期とのみ判断した住居も2軒あった。「横壁中村遺跡(7)」で報告された土器埋設遺構の中には、住居炉の可能性が指摘されているものが数基見られた。報告する調査区でも、さらに多くの住居が存在した可能性は高いだろう。

縄文時代後期の集落様相を考える上で、縄文時代中期の集落様相についても概観したい。横壁中村遺跡の縄文時代中期では、大規模環状集落が営まれていたことが明らかになってきている。大規模な環状集落は山根沢西側で検出されており、山根沢東側でも環状集落ほどの密度ではないが住居を検出している。環状集落の中央付近には広い空間が設けられており、土坑や数軒の竪立柱建物が見出されたが遺構数は少ない。墓域については明らかでない。縄文時代中期の大規模環状集落が、どのように形成され変容していったのか未だ結論は出ないが、加曾利EⅣ式期頃には環状集落を形成しようとする意識は薄れてきたように思われる。

縄文時代後期になると、数軒の住居が、一定の間隔を空け点在するように検出されるようになる。縄文時代中期に形成された大規模環状集落は、縄文時代後期にはいくつかのブロックに括れるような集落に変容し、ある程度の期間同様の場所に住み続けていたことが伺える(第158図参照)。報告する調査区では、特に29区でこのような傾向が顕著に見られ、称名寺2式期から堀之内1式期の住居が隣接、または重なるように建てられていた。また、称名寺2式期である29区4号住居と堀之内1式期である29区3号住居では、住居出入り口部付近にある同じ立石をともに意識しているような検出状況も見られた(第107図参照)。

縄文時代後期、各時期の様相についても述べてみたい。称名寺1式期では、住居は遺跡全域に散見できた。山根沢西側でやや多く検出されたが、住居軒数は少なく、特定の地域に集中する検出状況ではない。先述の通り、確認できなかった住居もあると思うが、少なくとも環状集落とは異なる集落へと変容していたことが分かる。

称名寺2式期になると、山根沢東側でも多くの住居が検出された。特に29区では、限られた範囲に隣接するように住居を構築しており、称名寺1式期との違いが伺える。また、29区4号住居では、住居出入り口部に列石を伴う可能性も指摘できるが、重複の著しい調査区であり断定することは難しい。

堀之内1式期においても、住居は限られた範囲に隣接するように構築されており、称名寺2式期との共通性が見いだせる。また、住居出入り口部に列石を伴う検出例が多く確認できるようにもなる。複数の住居が、列石を継承または共有する検出状況も見られ、当該期の特徴とも考えられる。

堀之内2式期の住居軒数は少なく、山根沢東側では確認できない。集落様相も判然としない部分はあるが、住居出入り口部に列石を伴い、この列石を継承または共有する傾向は継続するように思われる。加曾利B1式期の住居も同様に、山根沢西側でわずかに確認できたただけなので、集落様相について言及

することは難しい。堀之内2式期と同様に、住居出入り口部に列石が伴うかどうかとも判然としない。

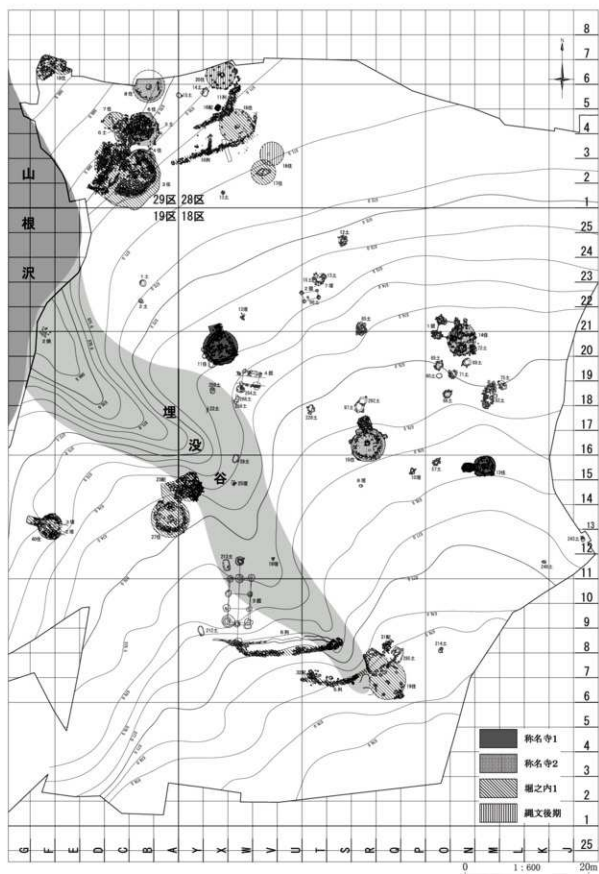
縄文時代後期には、掘立柱建物が多く出土するようになった。特に、12基の柱穴を持つ18区3号掘立柱建物は、集落の象徴的な建物であったと思われる。

る。隣接して墓坑も2基検出されており注目される。

縄文時代後期の墓塚は、29区山根沢西側で確認されているが、その詳細は明らかでない。今後の報告の際検証したいと考えている。

表6 横室中村遺跡 縄文時代後期住居時期別一覧表

区	住居	グリッド	時期	形状	検出	住居規模[m ²]			炉	柱	備考
						長	幅	深さ			
18	11号住居	W-X-19,20-X,21	舊者第1式期	—	納屋形	(6650)	(570)	51	—	方形石礎炉	18 敷石
18	13号住居	M-N-15	舊者第1式期	—	納屋形	534	302	31	—	方形石礎炉	7 敷石
29	18号住居	E-F-6-7	舊者第1式期	—	納屋形	(433)	(465)	—	—	土器埋設炉	4 敷石か、29区6号配石は住居出入り口部
20	52号住居	BC-16	舊者第1式期	40.8	納屋形	665	445	35	—	長方形石礎炉	11
20	119号住居	U-21	舊者第1式期	—	—	(339)	(295)	—	—	(土器埋設)	—
20	51号住居	C-2	舊者第1式期	1.9	納屋形	(748)	(522)	15	—	方形石礎炉	16
18	14号住居	M-N-O-20,N-21	舊者第2式期	—	(納屋形)	(580)	(460)	—	—	焼土痕	(1) 18区1号立、18区16区立(18区72号土坑を伴う)との切合関係不明、敷石か
18	15号住居	Q-R-15,16,R,17	舊者第2式期	—	(納屋形)	731	554	52	—	方形石礎炉	26 建て替えが行われた住居か、敷石
29	4号住居	A-B-C-2-3	舊者第2式期	—	(納屋形)	(700)	(455)	89	—	土器埋設方形石礎炉	7 29区13号配石を伴う、敷石か
29	6号住居	A-B-C-3-4	舊者第2式期	701.6	納屋形	425	400	26	—	方形石礎炉	9 伴あり、29区2-4号土坑との切合関係不明、敷石
29	8号住居	A-B-5-6	舊者第2式期	—	—	(400)	(372)	(52)	—	土器埋設炉	— 敷石か
19	24号住居	S-24-26	舊者第2式期	6.5	(納屋形)	(410)	(275)	—	—	—	12 周壁を伴う
20	108号住居	G-1	舊者第2式期	—	(納屋形)	(660)	(426)	—	—	方形石礎炉	11
19	21号住居	S-24-25	堀之内1式(古)期	31.0	(納屋形)	(495)	(630)	—	—	(土器埋設)	20 周壁を伴う
19	54号住居	W-17-19	堀之内1式(古)期	—	(納屋形)	(545)	(560)	—	—	(土器埋設)	22
19	27号住居	18区Y-12-13,19区A-12-13-14	堀之内1式(古)期	1.7	納屋形	(880)	(620)	40	—	土器埋設炉	17 18区23号配石を伴う、19区86号土坑との切合関係不明、敷石
19	40号住居	E-F-12-13,G-13	堀之内1式期	—	(納屋形)	(596)	411	75	—	土器埋設炉	17 19区2号土器埋設遺構との切合関係不明、敷石
28	17号住居	V-1-2	堀之内1式期	—	—	—	—	—	—	焼土痕	—
28	18号住居	W-X-3-4	堀之内1式期	—	(納屋形)	(498)	(468)	—	—	焼土痕	11 28区10-11号列石、16号配石を伴う、敷石
29	3号住居	A-B-C-1-2,B-3,D-1	堀之内1式期	—	(納屋形)	884	540	150	—	土器埋設炉	8 敷石、周壁遺構を伴う、(1)は周壁部を含む規模
29	7号住居	B-C-3-4	堀之内1式期	—	—	(470)	(309)	(32)	—	—	1
19	3号住居	W-X-25	堀之内1式期	23.0	(納屋形)	(780)	(740)	—	—	(土器埋設)	14 大形住居、19区58号住居との切合関係不明
19	32号住居	W-Y-14,15	堀之内1式期	1.1	(納屋形)	(640)	(790)	—	—	(石置炉)	7 周壁遺構を伴う
19	53号住居	W-X-15	堀之内1式期	—	(納屋形)	(675)	(700)	—	—	—	9 柱穴のみ
19	57号住居	X-Y-16-17	堀之内1式期	—	(納屋形)	(665)	(840)	—	—	—	15 掘り方・柱穴のみ
19	58号住居	W-X-24-25	堀之内1式期	—	—	(690)	(795)	—	—	—	5 大形住居、19区1号塚状柱穴より重要、19区3号住居との切合関係不明
20	40号住居	M-18	堀之内1式期	0.6	(納屋形)	(850)	810	—	—	—	24 20区19号・201-208号土坑との切合関係不明
20	47号住居	O-17	堀之内1式期	23.8	納屋形	760	505	70	—	土器埋設方形石礎炉	47 周壁を伴う、20区10号土器埋設遺構と近接
20	61号住居	L-18	堀之内1式期	0.3	(納屋形)	(610)	(750)	—	—	—	5 柱穴のみ
20	62号住居	C-4	堀之内1式期	—	(納屋形)	(625)	(645)	—	—	—	9 土器埋設方石礎炉
20	95号住居	A-17	堀之内1式期	0.2	(納屋形)	(890)	(735)	70	—	土器埋設(方)石礎炉	9 周壁遺構、各板・柱穴遺構あり
20	98号住居	B-15	堀之内1式期	2.6	(納屋形)	(578)	(492)	—	—	(土器埋設)	9
20	108号住居	A-3	堀之内1式期	—	(納屋形)	(540)	(500)	—	—	土器埋設方形石礎炉	4
20	114号住居	S-8	堀之内1式期	—	(納屋形)	(737)	(587)	—	—	(土器埋設)	13 20区568-569-581-592-642号土坑との切合関係不明、敷石
18	19号住居	P-Q-R-6-7,Q-R-8	堀之内1式(新)期	—	(納屋形)	(902)	(616)	—	—	土器埋設炉	13 18区5-6号列石、31-32号配石を伴う、敷石か
30	33a号住居	A-1	堀之内1~2式期	1080.0	(納屋形)	(1000)	(745)	—	—	—	18 周壁多量に出土
30	33b号住居	A-2	堀之内1~2式期	—	(納屋形)	(740)	(720)	—	—	—	13 周壁多量に出土
30	35号住居	B-3	堀之内1~2式期	7.9	(納屋形)	(785)	(625)	—	—	—	6 30区1号塚状柱穴より重要
19	28号住居	X-Y-16-17	堀之内2式期	3.7	(納屋形)	970	660	—	—	(石置炉)	8 周壁遺構を伴う
19	55号住居	W-15	堀之内2式期	15.7	(納屋形)	—	—	—	—	(土器埋設)	2 柱穴のみ、19区9号土器埋設遺構がに相当か?
20	77号住居	A-16	堀之内2式期	0.8	(納屋形)	520	485	—	—	(土器埋設)	8
20	70号住居	C-19	加賀第1式期	0.4	(納屋形)	725	(530)	—	—	方形石礎炉	28 20区4号列石と近接する
20	71号住居	A-17	加賀第1式期	43.0	(納屋形)	735	(630)	35	—	方形石礎炉	15 20区4号列石と近接する
30	38号住居	P-5	加賀第1~2式期	6.1	(納屋形)	565	410	—	—	方形石礎炉	—
19	56号住居	W-19	加賀第2式期	—	—	—	—	—	—	長方形石礎炉	— 炉のみ
30	34号住居	A-4	高井第1式期	—	(納屋形)	450	430	13	—	(方)石礎炉	—
30	36号住居	C-3	高井第1式期	134.6	(納屋形)	(525)	570	10	—	(方)石礎炉	8
28	16号住居	U,V-2-3	縄文後期	—	—	—	—	—	—	焼土痕	—
28	20号住居	W-X-5-6	縄文後期	—	—	(497)	(403)	20	—	—	11 (方)石礎炉
19	29号住居	W-23	縄文後期	0.3	—	—	—	—	—	—	—
19	36号住居	T,U-12-13	縄文後期	—	(納屋形)	—	—	—	—	(土器埋設)	—
20	19号住居	M-20	縄文後期	—	(納屋形)	(535)	(460)	—	—	—	8
20	75号住居	C-17	縄文後期	0.5	(納屋形)	(645)	517	12	—	—	52
29	23号住居	Y-3	縄文後期	—	—	—	—	—	—	—	— 敷石のみ



第158図 横壁中村遺跡東側 縄文時代後期住居時期別配置図

後期土器の時期区分と概要

藤巻幸男

1 はじめに

今回報告する横壁中村遺跡(8)と(9)は後期集落編で、諸般の事情から山根沢の東側を(8)、西側を(9)で報告するが、ここで扱う後期土器の時期区分等は共有の内容である。また、本遺跡の報告はこれまでに7冊を刊行している。そのうち、昨年刊行した(6)は土坑編、(7)は土器埋設遺構・掘立柱建物・環状柱穴列・柱穴列・集石・焼土遺構編であり、このうち後期の遺構については遺構全体図や本節でも一部を扱っている。

2 時期区分と概要

横壁中村遺跡では、縄文時代後期のほぼ全時期の土器が出土している。ここでは、報告対象とした各住居出土土器を中心に、土器埋設遺構や土坑出土の土器も一部加えて、時期区分に有効な土器を網羅的に集成し、本遺跡出土後期土器の様相の一端を明らかにしておきたい。ただし、遺構外出土土器の整理作業は未着手であり、ここに示す資料は本遺跡出土後期縄文土器の概要に留まる。

なお、時期区分については、一般的に使用されている細別型式に従うこととする。

称名寺1式期(図1～図2、1～25)

この時期の住居は20区52号住居、29区18号住居などがある。土器は、称名寺1式とこの地域特有の隆線文土器が主体で、これに加曾利E式土器や越後地域の三十稲場式系の土器が少量加わる。

1～8は加曾利E式系統の土器で、1～3のタイプは大型土器が多いのだが、本遺跡では中型の土器が目立つ。9～20は称名寺1式土器で、11は中津式系統の文様を描く古手の土器である。18は注口がつく小型の土器で、この時期では希な例であろう。21・22は三十稲場式古段階の土器で、20の称名寺1式と共に土坑内から出土している。23～25はこの地域特有の隆線文土器で、加曾利E式系とは異なる

8字状の文様構成をとるものが多く、隆線の交点につくボタン状の貼付が特徴的である。本地域の大型土器は大半がこのタイプで占められるが、この傾向は堀之内1式段階まで残存するようだ。

称名寺2式期(図3～図4、1～37)

この時期は18区15号住居、29区4号住居などから基準的な土器が出土している。特に前者は、新しい段階の良好な資料がまとまっている。土器は称名寺式の他に隆線文を特徴とするいわゆる茂沢類型の一群があり、それに三十稲場式土器と隆線文土器が加わる。

3・4は櫛歯状施文具で列点を施す一群である。19～21は小型の壺型土器で、県内平野部では見かけない。称名寺式特有の文様をよく留めており、1式に遡るかもしれない。22と23は注口付浅鉢で、22は1式の可能性もある。

14～18は茂沢類型に該当する一群で、24と25はその浅鉢であろう。隆線の使用と交点に付くボタン状貼付は、隆線文土器との関係が指摘できる。13は器形および文様構成が14と類似するが、沈線と列点の文様は称名寺2式土器と共通している。

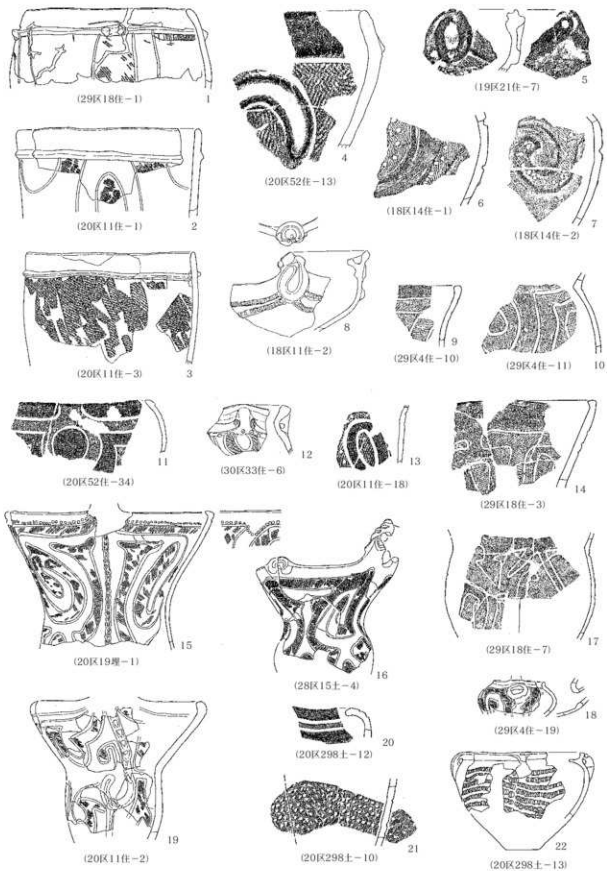
27～36は隆線文土器で、大型土器の他に中型・小型の土器も認められる。また、33・34では隆線に押圧を加え、35・36では刻目が施される。

26は頸部に刺突文を施し、以下に縦位の条線を施した壺型の土器で、越後系であろうか。37は網取1式に先行する土器であろう。

堀之内1式期(図5～図9、1～81)

古段階では19区21号住居、19区27号住居、19区54号住居等があり、中段階では20区47号住居、20区82号住居、29区3号住居等が該当し、新段階では18区19号住居、19区27号住居、20区114号住居等がある。この時期も関東系と信州系の土器とがあり、これに越後の三十稲場式土器が少量加わる関係は変わらない。

1～4は、器形や文様構成に称名寺式の特徴が色濃く残る。30は越後地域に多いタイプで、口縁部内面の大柄な同心円文様が特徴的である。32・48



第1図 称名寺1式期(1)

は全面に縄文を施したもので、東関東に多いタイプである。

53は称名寺式の文様を残しており、口縁部の隆線文は図4の27と近似する。54・55は越後地域に多いタイプであろう。63～66は三十稲場式土器で、66は称名寺2式に遡る可能性もある。59も越後地域の土器であろうか。67は小型の壺型土器、72・73は注口土器で、ともに称名寺式の名残を留める。68・69は茂沢類型の新しい段階のもので、52はその系譜を引くものであろう。71は注口付浅鉢で、この形態では最終段階のものであろう。

74～78は隆線文土器で、75～77では称名寺段階のものに比べて口縁無文部の幅が広い。

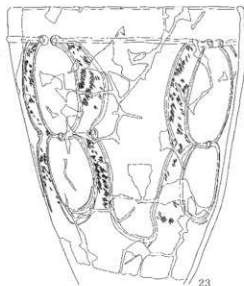
堀之内2式期 (図10～図12、1～67)

この時期の住居は19区28号住居、19区55号住居、20区77号住居、30区35号住居等がある。小型の深鉢や浅鉢、注口土器などでは、焼し焼成による黒色の研磨が入念に施された精製と呼ぶべき土器がつくられるようになる。また、土器の地域色は薄れ、広域に分布する土器へと集約する傾向が認められるのも、この時期の特徴であろう。

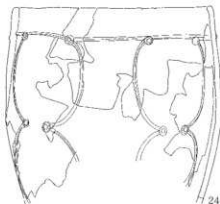
1～15は口縁部が大きく開く深鉢・鉢で、このうち1～6は堀之内1式から2式へと推移する段階の土器である。16～18は粗製の大型の深鉢で、16は深鉢特有の文様を簡略化しており、その手法が興味深い。17の胴部上半に見られる斜位のナデ痕は、この時期の特徴的な手法である。19は小型の壺型土器、22・23は浅鉢で、いずれも出土量は少ない。浅鉢の23は、堀之内1式段階の71に見られる口縁部文様を内面に引き継ぎ、22ではその波状口縁の系統を引き継いでいる。

24～43はいわゆる朝顔形深鉢で、このうち24～26は堀之内1式から2式へと推移する段階の土器である。45～51は加曾利B1式段階へつながる最終の資料で、文様は単純化されている。

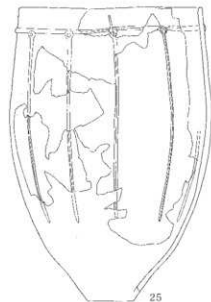
52～67は注口土器で、全形が残るものは少ないが、全体に占める割合は増加している。66・67は技巧を凝らした精緻な造りのもので、日常品の域を



(29)K4住-43)



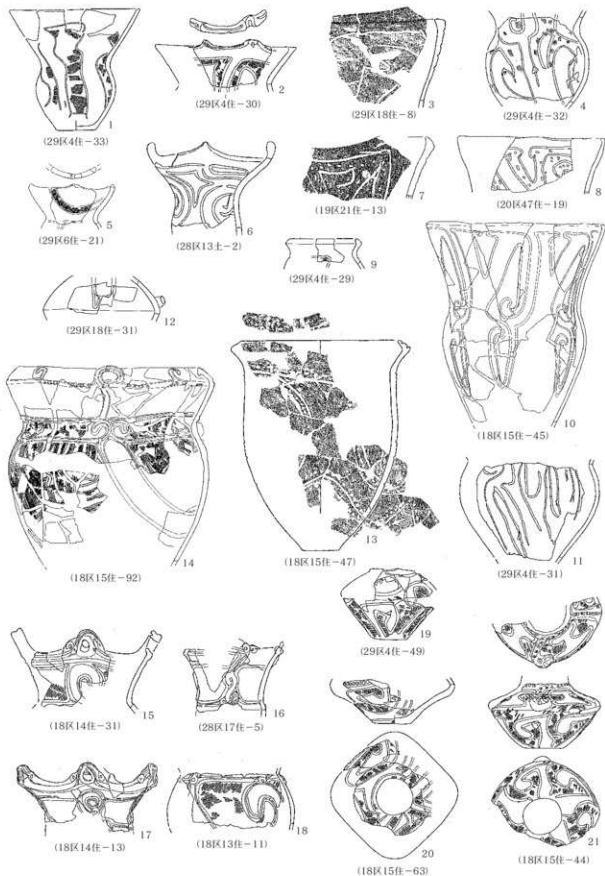
(29)K4住-50)



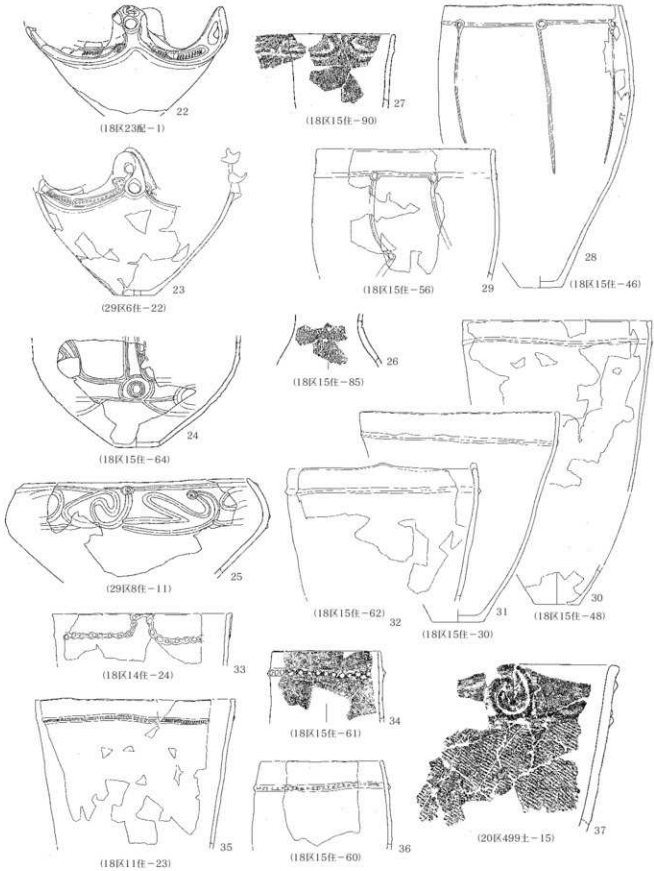
(29)K6住-11)

第2図 称名寺1式期 (2)

第4章 調査の成果とまとめ

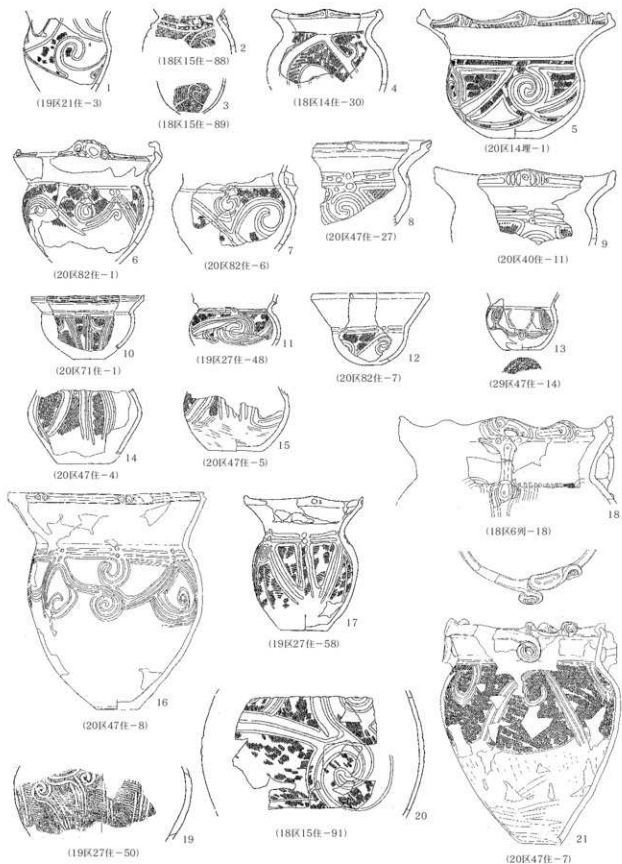


第3図 称名寺2式期(1)

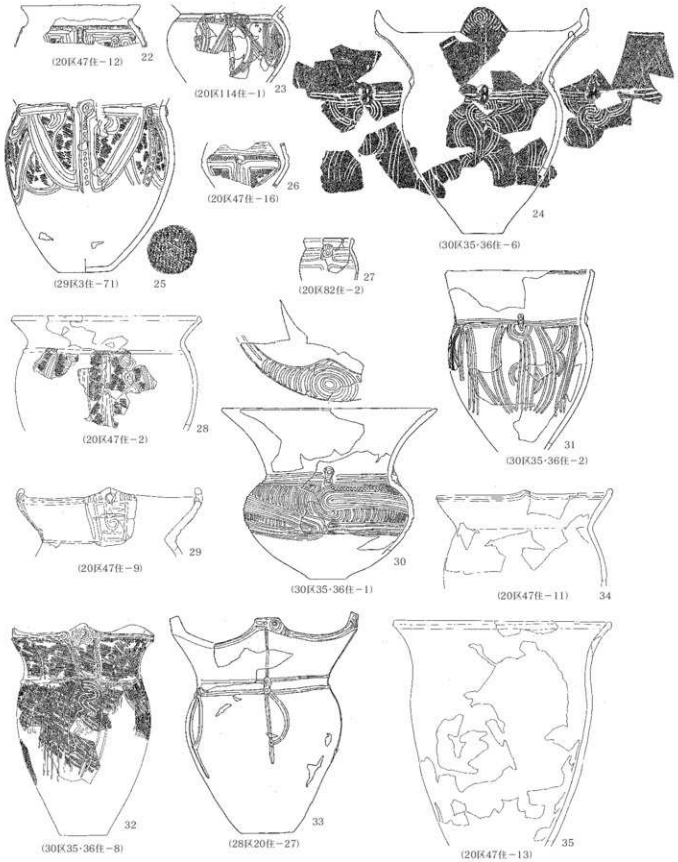


第4図 称名寺2式期(2)

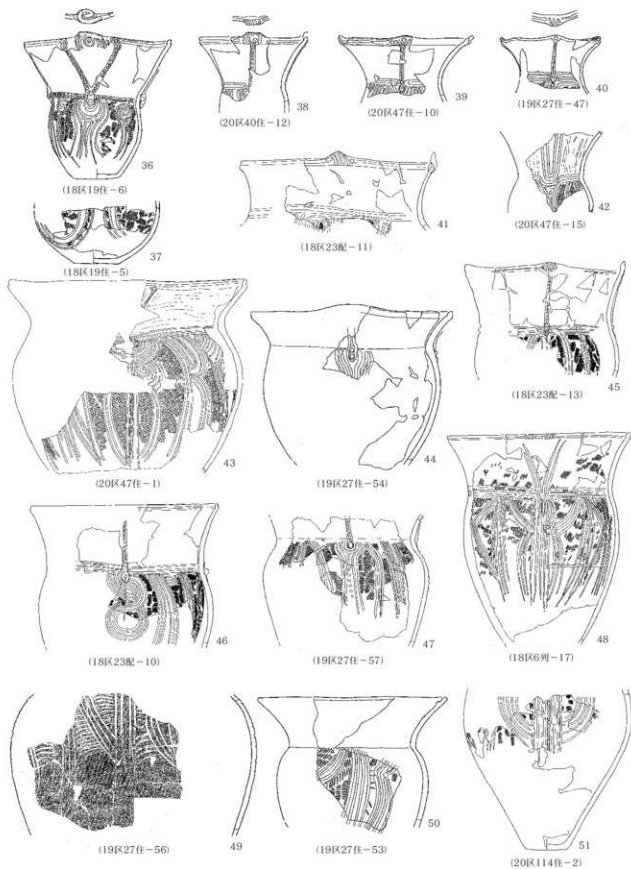
第4章 調査の成果とまとめ



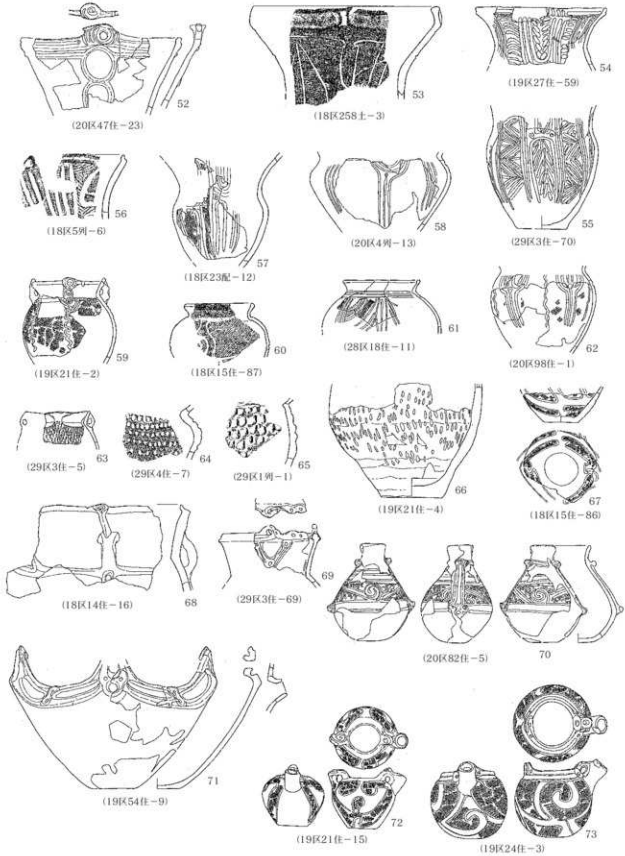
第5図 堀之内1式期(1)



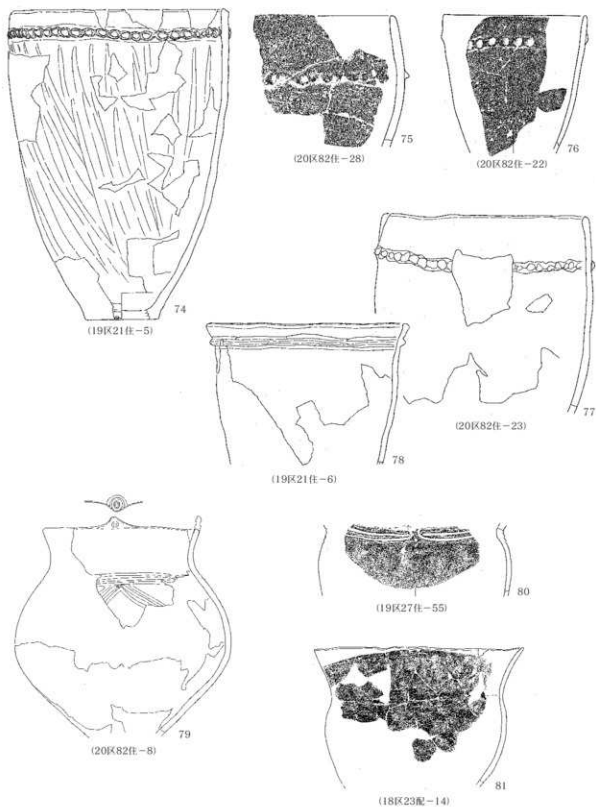
第6図 堀之内1式期(2)



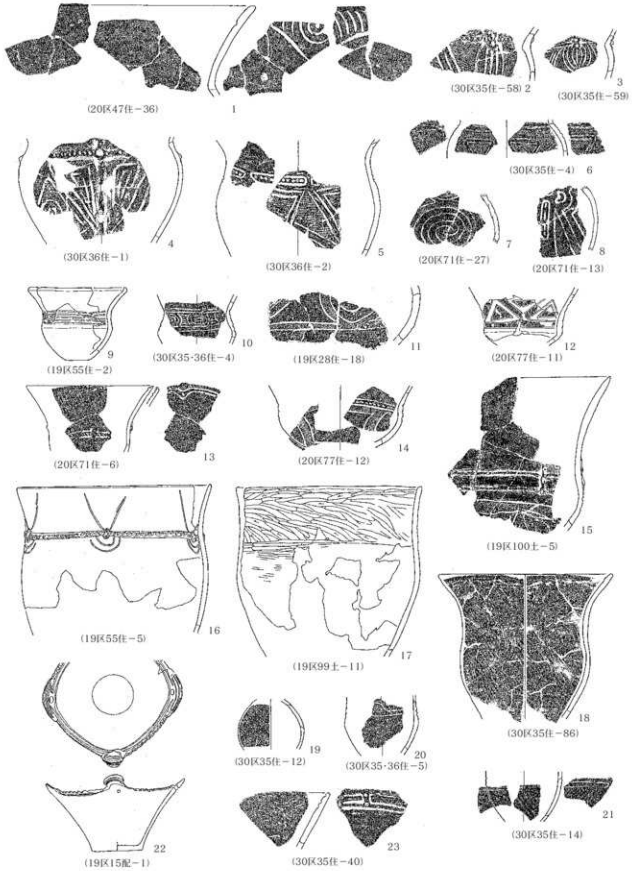
第7図 堀之内1式期(3)



第8図 堀之内1式期(4)

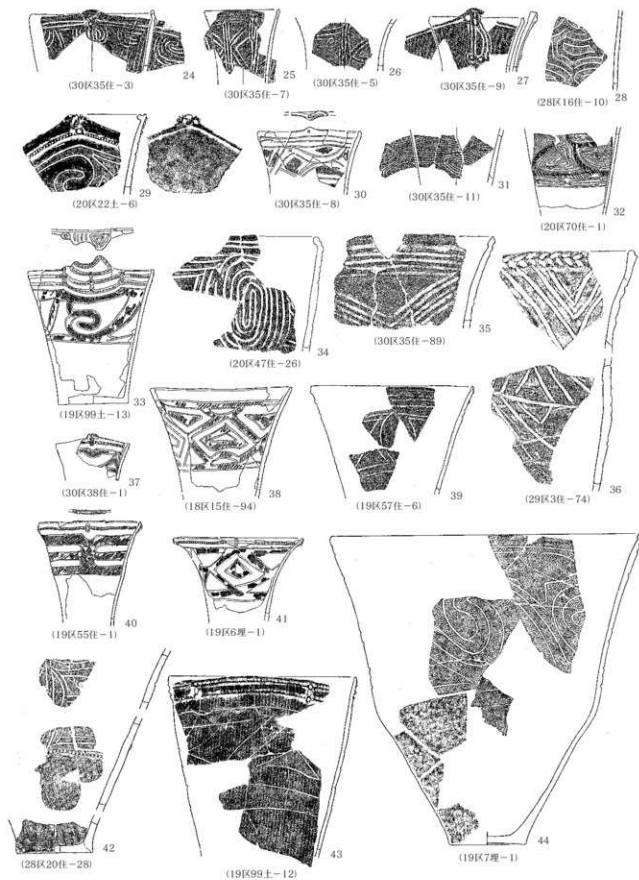


第9図 堀之内1式期(5)

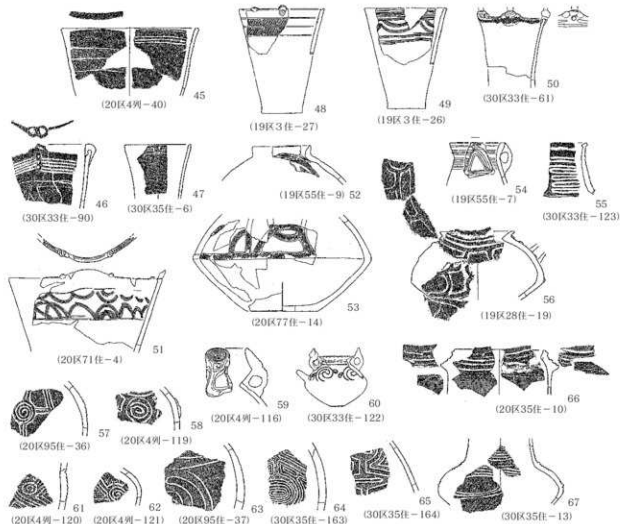


第10図 堀之内2式期(1)

第4章 調査の成果とまとめ



第11図 堀之内2式期(2)



第12図 堀之内2式期(3)

脱しており、交易的性格の可能性を想定させる。

加曾利B式期(図13～図15、1～65)

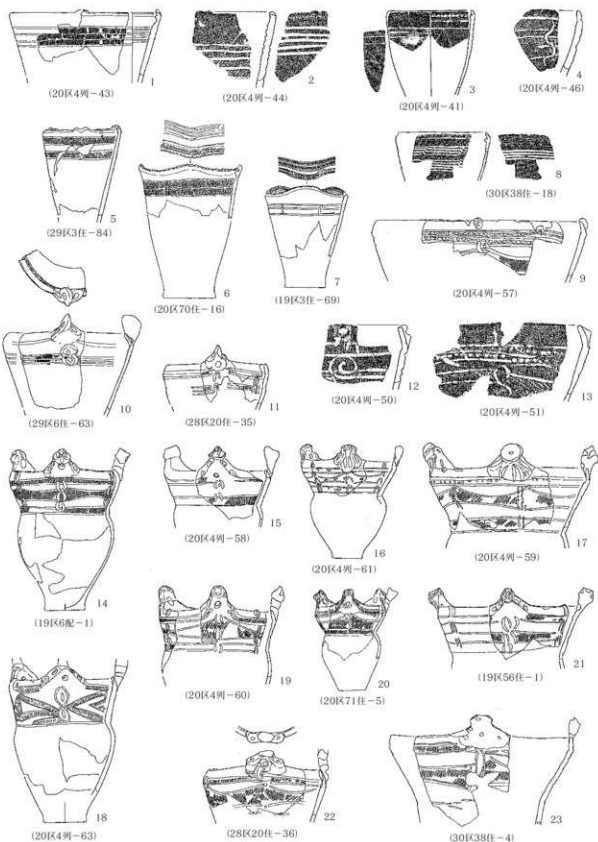
この時期の住居としては19区56号住居、20区70号住居、30区38号住居等があるが、資料が最も充実しているのは4号列石とその付属施設である。4号列石は、堀之内式段階から続く大型住居の出入り口施設に伴うものだが、この段階の土器がよくまとまっている。この段階では、広範に分布する共通性の強い土器に集約されるようになると共に、精製の使い分けが明瞭化する。出土土器は、加曾利B1式からB2式までの段階はよく揃っているが、B3式期の土器は少ない。器種は、精製の深鉢をはじめ、鉢、浅鉢、注口土器、そして粗製の大型深鉢などが認められる。

1～23は精製の深鉢で、加曾利B3式期のものは

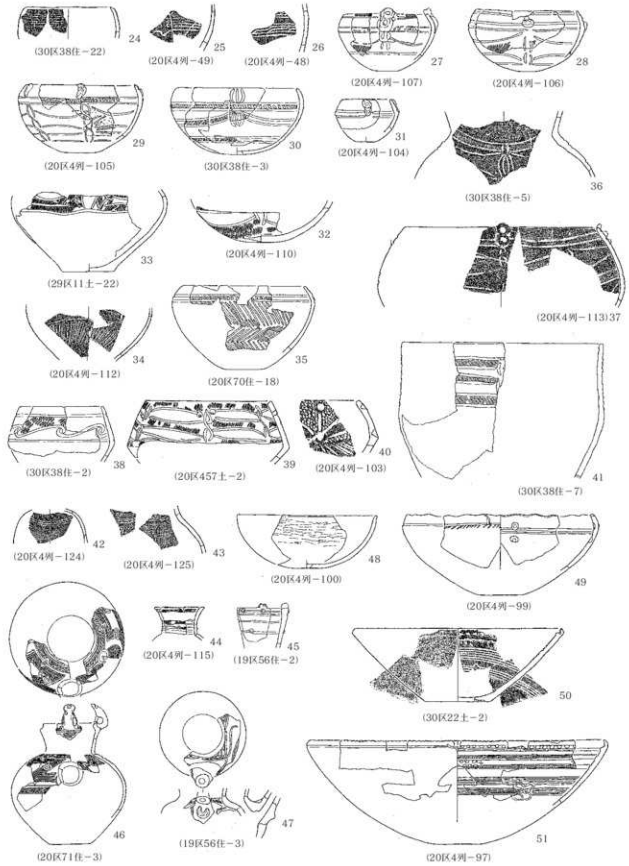
少ない。1～8は加曾利B1式土器で、平縁と波状口縁とがあり、平縁のものは口縁部に二山の突起が付くものが多い。9～23は加曾利B2式土器で、大半が平縁のタイプで、口縁部に把手を伴うものが多い。10～12は加曾利B1式から2式へ推移する段階の土器で、10・12では沈線部に「の」の字文が施され、10・11では口縁部に耳状の把手が付く。9～23は加曾利B2式土器で、9・13は口縁部に小さな耳状の突起が付き、14～23では立体的な大型の把手が付く。体部文様は弧線文と対弧文で構成されるものが多い。18は沈線間に刺突を施すタイプである。

24～35・37～41は鉢形の土器で、数タイプに別けられる。24～35は体部が丸く、口縁部が内湾するタイプの一群である。24～26は加曾利B1式

第4章 調査の成果とまとめ



第13図 加曾利B式期(1)



第14図 加曾利B式期(2)

第4章 調査の成果とまとめ



第15図 加曾利B式期(3)

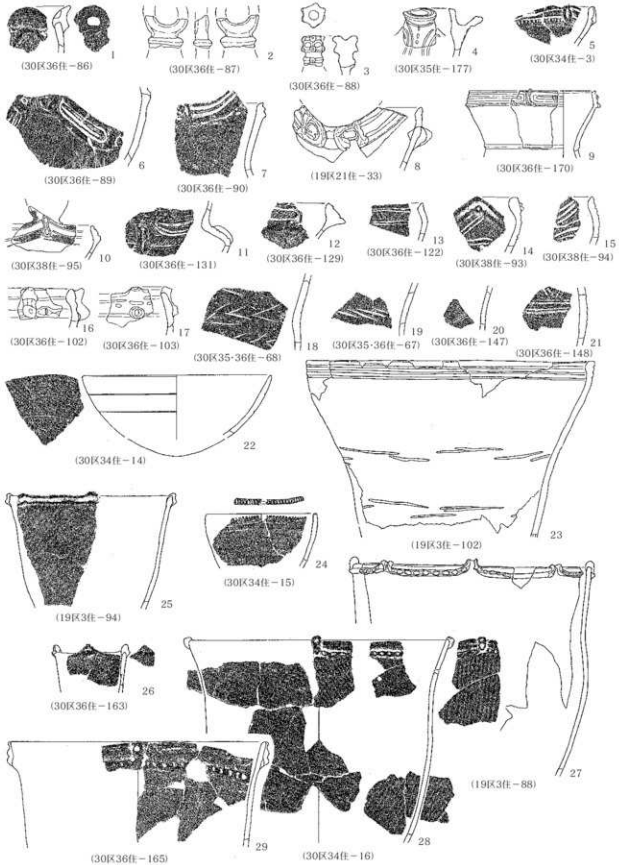
期のもので、文様は体部上半に集約されている。27~34は加曾利B2式期のもので、底部は丸底状を呈し、文様は体部全体に及ぶものが多い。33・34は主文様が体部上半にあり、33は平底、34は体部下半に斜行沈線を施す。35は体部全体に羽状沈線文を施すもので、加曾利B3式に比定しておきたい。37~40は体部がくの字に折れて口縁部が内傾するタイプで、いずれも主文様は内傾する体部上半に限られる。37~39は加曾利B2式期のもので、38では入り組み文が見られる。40は体部下半に斜行沈線を施すもので、加曾利B3式に比定しておきたい。36はこの内傾するタイプに外傾する無文の口縁がつくもの、41は体部上半が直立するタイプのもので、いずれも加曾利B2式期に比定される。

42~47は注口土器である。42・43・46は細密沈線で文様を構成するもので、加曾利B1式期に比定される。47は18と同様の文様を施すもので、注口部の付け根に耳状の突起がつく。加曾利B2式期に比定される。44・45は東北地方南部に分布する瘤付土器で、高井東式期に含めるべきか。

48~51は浅鉢である。50・51は内面施文の土器で、加曾利B1式期に比定される。49は口縁が波状を呈するもので、加曾利B2式期に該当する。

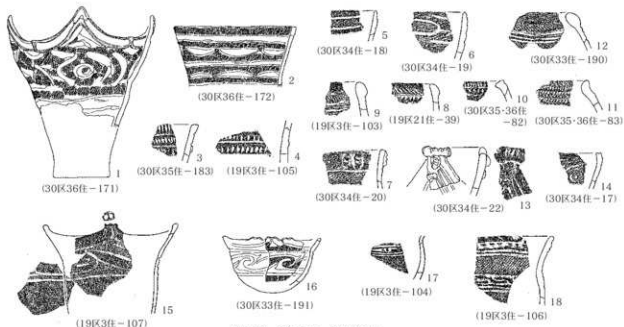
52~59はいわゆる粗製の深鉢で、大型の土器が多い。52・54~56は口縁部に押圧を伴う隆帯が2

後期土器の時期区分と概要



第16図 高井東式期

第4章 調査の成果とまとめ



第17図 後期末～晩期初頭

糸めぐり、胴部に縦位の弧状沈線文が施される。53は体部に格子目状沈線が施される。57は地文に縄文を施すもので、口縁部をめぐる隆帯は1条のみである。58・59は口縁部に沈線で文様帯を構成するものである。以上の土器はいずれも加曾利B1式に比定されよう。

60～65は半粗製の一群である。60～63は羽状沈線文を施すもので、62・63では一部格子目状となる。加曾利B2式に比定されよう。64・65は内折する口縁部に縄文を施すもので、64は胴部に羽状沈線文が施される。加曾利B3式に比定されよう。高井東式期（図16、1～29）

この時期では30区34号住居、30区38号住居があるが、全容を伺える資料は少ない。また、29区西側には配石墓群があり、その周囲の住居上面からもこの時期の土器が出土している。

1～5は精製土器の様々な把手、6～8は大波状口縁の土器である。9は全面赤色塗彩の土器、22はこの時期の浅鉢であろう。大型品では、胴部に羽状沈線文を施すタイプ（23）や口縁部に隆帯を施すタイプ（27～29）が認められる。

後期末～晩期初頭（図17、1～18）

本遺跡では今のところ、この時期に該当する住居

は確認されていない。

1・2は30区36号住居の炉辺に埋設されていた土器で、安行1式期に比定されよう。1は器形や口縁部貼付文は高井東式に類似し、文様は壺付土器に類似する。2は刻目がつく粒状の貼付文を多用しており、安行2式とすべきか。3・4は沈線間に刺突状の刻みが施され、粒状の貼付が伴う。壺付土器の系統であろう。7～11は安行1式、12・13は安行2式に該当する。14～16は人組三叉文を施すもので、晩期安行3a式に比定されよう。17は玉抱き三叉文を施す大洞B1式に、18は半歯状文を施す大洞BC式に該当する。

3、おわりに

本遺跡出土の後期土器は、群馬県平野部に分布する関東系の土器と信州系の土器とが相半ばしており、これに越後系の土器が少数加わる傾向が認められた。こうした傾向は早期や中期後半の土器にも認められる特徴で、本地域の独自性を示している。

今回は概要を一瞥したに過ぎないが、今後に予定されている遺構外出土物の整理作業を待つて、さらに詳細な検討を行いたいと思う。

横壁中村遺跡29区6号住居出土獣骨

檜崎 修一郎

はじめに

横壁中村遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町に所在する。本遺跡は、ハツ場ダム建設に伴う発掘調査で、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成8(1996)年～同16(2004)年まで実施された。本遺跡では、住居及び土坑から主に縄文時代の焼骨(獣骨)が多数出土しているが、今回は29区6号住居出土獣骨を報告する。今回報告する獣骨も、すべて焼骨である。

本住居は、柄鏡形敷石住居で方形石囲炉を伴い、称名寺2式縄文土器を伴出しており、時代は縄文時代後期に比定されている。報告書担当者の黒澤照弘氏によれば、同氏が担当して平成20(2008)年3月に刊行した『横壁中村遺跡(6)土坑編』で本報告者が出土獣骨を報告した29区3号土坑は、土坑ではなく本住居覆土の一部である可能性が高いという。

この、29区3号土坑からは、ニホンジカ(*Cervus nippon*)の右上腕骨遠位端片・右機骨近位端片・右大腿骨遠位端片やニホンイノシシ(*Sus scrofa*)の左頭頂骨片が出土している(檜崎, 2008)。

また、今回の獣骨の同定でも、ニホンジカ及びニホンイノシシが同定されたので、以下にニホンジカとニホンイノシシに分けて報告する。これらの獣骨は、大きな傾向として、頭蓋骨片が少なく、四肢骨片が多いという点が共通して認められる。しかしながら、小片が多いため、同定可能で報告に耐える獣骨は少ない。なお、獣骨の計測方法は、フォン・テン・ド・リーシェ[von den Driesch]の方法に従った(von den Driesch, 1976)。

1. ニホンジカ(*Cervus nippon*)

ニホンジカと同定された部位は、左踵骨である。白色を呈しており、約900℃以上で焼成されたと推定される。ほぼ完形で、最大長[GL]約90mm・最大幅[GB]約25mmである。カットマークは、認められなかった。シカでは、上腕骨・脛骨・機



図1 横壁中村遺跡29区6号住居出土ニホンジカ出土部位図(八谷・大森司, 1994を改変)



写真1 横壁中村遺跡29区6号住居出土ニホンジカ左踵骨内側面観



写真2 横壁中村遺跡29区6号住居出土ニホンジカ左踵骨上面観

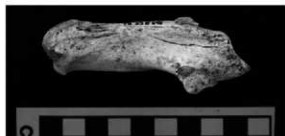


写真3 横壁中村遺跡29区6号住居出土ニホンジカ左踵骨外側面観

第4章 調査の成果とまとめ

骨・下顎骨にカットマークが多いという（本郷、1991）。骨化は完了しており、成獣である。性別は、不明である。

2. ニホンイノシシ (*Sus scrofa*)

ニホンイノシシと同定された部位は、右尺骨滑車部・中手骨頭部・左踵骨である。どれも、白色を呈しており、約900℃以上で焼成されたと推定される。

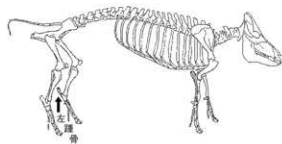


図2 横壁中村遺跡29区6号住居出土
ニホンイノシシ出土部位図

(1) 右尺骨滑車部

全長約35mmの右尺骨滑車部である。カットマークは、認められなかった。性別及び死亡年齢は、不明である。



写真4 横壁中村遺跡29区6号住居出土ニホンイノシシ左尺骨

(2) 中手骨頭部

幅約14mmの中手骨頭部である。骨化は、完了し

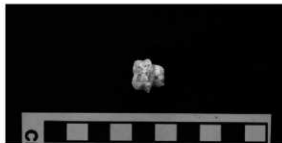


写真5 横壁中村遺跡29区6号住居出土ニホンイノシシ中手骨

ていない状態である。この骨化は、約3歳前後で完了すると言われているので、死亡年齢は、約3歳以下であると推定される。性別は、不明である。

(3) 左踵骨

一部、遠位端及び外側面が破損している。最大長【GL】は現状で約(62mm)・最大幅【GB】約18mmである。

わずかなカットマークが、外側面に認められた。イノシシでは、寛骨・距骨・踵骨・脛骨・上腕骨に



写真6 横壁中村遺跡29区6号住居出土
ニホンイノシシ左踵骨内側面観



写真7 横壁中村遺跡29区6号住居出土
ニホンイノシシ左踵骨上面観

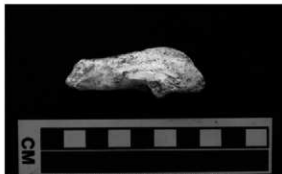


写真8 横壁中村遺跡29区6号住居出土
ニホンイノシシ左踵骨外側面観

カットマークが多いという(本郷, 1991)。骨化は完了しており、成獣である。性別は、不明である。
考察

横壁中村遺跡の29区6号住居より、縄文時代後期の獣骨が出土した。

東日本の縄文時代後晩期の遺跡からは、イノシシ及びシカを中心とした獣骨の焼骨が出土することが知られている。これら東日本の事例として、道平遺跡〔福島県〕(茂原他, 1983)・乙女不動原北浦遺跡〔栃木県〕(茂原他, 1982)・元屋敷遺跡〔新潟県〕(富岡・浅利, 2002)・郷土遺跡〔長野県〕(金子, 1990b)・円光房遺跡〔長野県〕(金子, 1990a)・金生遺跡〔山梨県〕(金子, 1989)・原ヶ谷戸遺跡〔埼玉県〕(宮崎, 1993)・なすな原遺跡〔東京都〕(金子, 1984)等がある。

群馬県においては、千綱谷戸遺跡〔桐生市〕(宮崎, 1978)・矢島遺跡〔明和町〕(宮崎, 1991)・矢瀬遺跡〔みなかみ町〕(宮崎, 2005)等の遺跡が知られている。また、まだ報告書が継続して刊行中であり全容は不明であるが、本横壁中村遺跡の20区382号土坑・29区33号土坑(橋崎, 2008)、同20区95号住居・30区33号住居・30区36号住居(橋崎, 2009b)において、ニホンジカやニホンイノシシが出土している。さらに、同遺跡においては初めて、30区33号住居から焼人骨が出土している(橋崎, 2009a)。

これらの解釈として、再葬(阿部, 2004)・火と浄め(金子, 1984)・狩猟儀礼(新津, 1985)・骨髄食と住居火災(宮崎, 1980)等が考えられている。最近、この解釈に加えて、確実な死をとげて浄化されるまでの間に、人への災いを防ぐため獣骨を焼く儀礼が行われたという新解釈もなされている(設楽, 2008)。

また、シカとイノシシを巡る動物観については、縄文時代の獣骨はシカが39.3%・イノシシが37.3%とはほぼ同比率で出土するのに対し、動物形土製品ではイノシシ形土製品は100例以上認められるが、シカ形土製品はほとんど無く、弥生時代になると、

シカの線刻や像が急増する事実から、縄文中期後半から縄文人の動物観が変化した可能性が指摘されている(西本, 2008)。

縄文時代後晩期は、気候変動に伴い、遺跡数及び人口の減少がもたらされた時代であると考えられている。獣骨に成獣が少なく、幼獣が多いことは、狩猟圧に伴い、幼獣まで狩猟しなければならなかったのか、あるいは、儀礼のために幼獣をわざわざ選択したのかのどちらかであると推定される。

まとめ

横壁中村遺跡の縄文時代後期に属する柄鏡形敷石住居である29区6号住居から、ニホンジカ及びニホンイノシシの焼骨が出土した。これらは、ニホンジカの左踵骨、ニホンイノシシの右尺骨・中手骨・左踵骨である。2008年にすでに報告済みの本遺跡29区3号土坑は、この29区6号住居と同じである可能性が高いため、以下に前回報告分と合わせてみる。

29区3号土坑からは、ニホンジカの右上腕骨遠位端・右桡骨近位端・右大腿骨遠位端及びニホンイノシシの左頭頂骨が出土している(橋崎, 2008)。これに、今回報告の左踵骨が加わることになる。

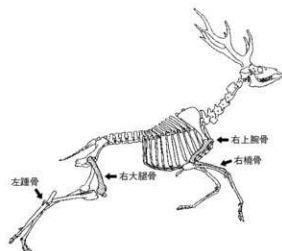


図3 横壁中村遺跡29区6号住居及び29区3号土坑出土ニホンジカ出土部位図(八谷・大森司, 1994を改変)

貝塚出土のシカとイノシシの部位別出土率を研究した結果では、シカでは下顎骨・肩甲骨が多く、その他上腕骨遠位部・脛骨遠位部・踵骨・大腿骨近位

部となり、イノシシでは下顎骨・上腕骨遠位部・脛骨遠位部・肩甲骨・踵骨となるという(西本, 1995)。また、他の研究では、シカでは肩甲骨・上腕骨遠位部・脛骨遠位部・踵骨・距骨・尺骨・寛骨が多く、イノシシでは肩甲骨・上腕骨遠位部・尺骨・踵骨・寛骨が多いという結果も報告されている(真貝, 1996)。さらに、鳥浜貝塚出土シカとイノシシの分析では、シカは集落本拠地であり、イノシシは狩猟キャンプであると推定され、シカの狩猟時期は夏〜秋(8月〜9月)にかけて捕獲し、イノシシの狩猟時期は1年を通じて捕獲したが、特に冬〜春にかけて集中的に捕獲したと推定されている(内山, 2005・2007)。

横壁中村遺跡の場合、現時点では、シカが多くイノシシが少ない傾向があり、かつ頭蓋骨や下顎骨が少なく四肢骨が多い傾向にある。これは、何を意味するかは全貌を待たなければならないが、現代のハンターが行うような頭蓋骨を別の場所に捧げるというような行為もあったのかもしれない。

引用文献 [著者名のアルファベット順]

阿部友寿 2004 道精更新における骨類の出土例, 『古代』, (116) : 19-42.
 八谷 昇・大森司紀之 1994 『骨格標本作成法』, 北海道大学図書刊行会
 本郷一美 1991 『哺乳類遺存体に残された解体痕の研究』, 『国立歴史民俗博物館研究報告』, 29 : 149-195.
 金子浩昌 1984 『第4章. 動物遺存体の分析・調査』, 『なすな原遺跡』, なすな原遺跡調査会, p.580-605.
 金子浩昌 1989 『第VI章. 金生遺跡出土の獣骨』, 『金生遺跡II』, 山梨県教育委員会, p.222-242.
 金子浩昌 1990a 『長野県小諸市郷土遺跡出土の脊椎動物遺体』, 『旧光原遺跡』, 徳倉町教育委員会, p.185-204.

橋崎修一郎 2008 『横壁中村遺跡土坑出土獣骨』, 『横壁中村遺跡(6)土坑編』, (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, p.293-296.
 橋崎修一郎 2009a 『横壁中村遺跡(9)住居出土人骨』, 『横壁中村遺跡(9)』, (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, p.348
 橋崎修一郎 2009b 『横壁中村遺跡(9)住居出土獣骨』, 『横壁中村遺跡(9)』, (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, p.349
 西本豊弘 2002 『哺乳動物骨格図集(1)』, 『動物考古学』, (19) : 93-119.
 西本豊弘 2008 『動物骨格図集(6)』, 『動物考古学』, (25) : 89-105.
 松井 章 2008 『動物考古学』, 京都大学学術出版会
 宮崎重雄 1978 『V. 群馬県生市千瀬谷戸遺跡星野昭司宅内1号住居跡出土の獣骨類』, 『千瀬谷戸遺跡発掘調査報告書』, 千瀬谷戸遺跡発掘調査会, p.125-134.
 宮崎重雄 1980 『千瀬谷戸遺跡出土の獣骨類について』, 『歴史生史』, p.27-36.
 宮崎重雄 1991 『V. 矢島遺跡出土の獣骨類について』, 『矢島遺跡発掘調査報告書』, 明和村教育委員会, p.44-48.
 宮崎重雄 1993 『2. 原ヶ谷戸遺跡出土の獣骨について』, 『原ヶ谷戸・滝下』, (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団, p.351-359.
 宮崎重雄 2005 『矢島遺跡出土の獣骨について』, 『上野北郷遺跡群II』, 月夜野町教育委員会, p.265-268.
 新津 健 1985 『縄文時代後晩期における焼けた獣骨について』, 『日本史の黎明』, 六興出版, p.125-153.
 茂原信生・小野寺 寛・板井秀雄 1982 『第10章. 乙女不動原北浦遺跡出土の哺乳動物遺体について』, 『乙女不動原北浦遺跡』, 小山市教育委員会, p.433-436.
 茂原信生・馬場悠男・芹澤豊夫・小野寺 寛・江藤徳治 1983 『第4編. 道平遺跡出土の獣骨について』, 『道平遺跡の研究』, 福島県大槻町教育委員会, p.212-215.
 真貝利香 1996 『縄文遺跡から出土したイノシシ・シカ遺体における四肢骨の出土比率について』, 『民族考古』, (3) : 43-62.
 設楽博己 2008 『1. 縄文の動物遺』, 『人と動物の日本史1. 動物の考古学』, 吉川弘文館, p.10-34.
 富岡直人・浅利洋美 2002 『10. 元屋敷遺跡出土動物遺存体の分析』, 『元屋敷遺跡II』, 朝日村教育委員会, p.334-340.
 内山純蔵 2005 『第3章. 縄文人の移動生活』, 『日本の狩猟採集文化』, [池谷和信編], 世界思想社, p.45-97.
 内山純蔵 2007 『縄文の動物考古学』, 昭和堂
 von den Driesch, A. 1976 'A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites', Peabody Museum, Harvard University

遺物観察表

展覧	区	掲載番号	前後	存在状態	胎土・構成・色調	彫形・文様の特徴、計測値(単位:cm、Jは測定値)	時期・備考	
2006	18	1414	24	押跡	口縁部(10%) 緑褐色、多量、黄緑色。	柄文を伴う複位輪帯1条、口径38.0。残存高さ10.5。	真名寺	
2006	18	1414	25	押跡	口縁-胴部 緑褐色、多量、黄緑色。	柄文を伴う複位輪帯1条、口径38.0。残存高さ10.5。 外表面に、口径38.0。残存高さ4.4。	真名寺	
2006	18	1415	26	押跡	腹部片	外縁部、上縁及び底縁の3重、内面、外周無文部研削。	堀之内1	
2006	18	1415	27	押跡	腹部片	外縁部、外周面11.4重。	堀之内1	
2006	18	1415	28	押跡	腹部片	外縁部、上縁、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。	堀之内1	
2006	18	1415	29	押跡	口縁-胴部 緑褐色、多量、黄緑色。	口縁部、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。	堀之内1	
2006	18	1415	30	押跡	口縁-胴部 緑褐色、多量、黄緑色。	口縁部(15%)、残存高さ11.8、口径11.8と同一個体。 口縁部の上縁、胴部と平均径による平行径線、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。口径37.0。残存高さ15.2。	堀之内1	
2106	18	1415	31	押跡	口縁-胴部片	砂粒中多量、黄、明褐色。	底面平ら、口径10.0。	後期
2106	18	1415	32	底面片	緑褐色、多量、明褐色。	底面平ら、口径10.0。	後期	
18区15号住居土器観察表								
3206	18	1515	1	押	腹部片	砂粒多、雲母片、黒、黄褐色。	柄文。	三丁堀
3206	18	1515	2	押跡	腹部片	砂粒多、黄、黄褐色。	短小な伴う複位輪帯、柄文、内外面研削。	三丁堀
3206	18	1515	3	押跡	腹部片	砂粒中多量、黄、黄褐色。	柄文。	三丁堀
3206	18	1515	4	押跡	口縁部片	緑褐色中多量、黄、明褐色。	縦位、縦位輪帯、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。	真名寺2
3206	18	1515	5	押跡	口縁部片	緑褐色少、黄、褐色。	単列した横文、内面、外周無文部研削。先径、No3と同一個体。	真名寺2
3206	18	1515	6	押跡	腹部片	緑褐色、黄、黄褐色。	並列した横文、内外面研削。先径、No2と同一個体。	真名寺2
3206	18	1515	7	押跡	腹部片	緑褐色、黄、黄褐色。	柄文。並列した横文文部、先径、No1と同一個体。	真名寺1
3206	18	1515	8	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。	真名寺1
3206	18	1515	9	押跡	口縁-胴部片	砂粒多、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。	真名寺1
3206	18	1515	10	押跡	口縁部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	口縁部内、並列した横文文部、先径、No12と同一個体。	真名寺2
3206	18	1515	11	押跡	口縁部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	口縁部内、並列した横文文部、先径、No12と同一個体。	真名寺2
3206	18	1515	12	押跡	口縁部片	緑褐色少、黄、黄褐色。	口縁部内、並列した横文文部、内面研削。	真名寺2
3206	18	1515	13	押跡	口縁部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	口縁部内、並列した横文文部、内面研削。	真名寺2
3206	18	1515	14	押跡	口縁部片	緑褐色少、黄、黄褐色。	口縁部内、並列した横文文部、内面研削。	真名寺2
3206	18	1515	15	押跡	口縁部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文文部、内外面研削。	真名寺2
3206	18	1515	16	押跡	口縁部片	砂粒多、黄、黄褐色。	外縁部。	真名寺2
3206	18	1515	17	押跡	口縁部片	緑褐色少、黄、黄褐色。	口縁部内、内外面研削。	真名寺2
3206	18	1515	18	踏跡	口縁部底片	砂粒多、黄、黄褐色。	胎土内に点状柄文を伴うC字文、口縁部の外周縁に柄文を伴う区画文に準拠した横文文部、内外面研削。先径、No19と同一個体。	真名寺2
3206	18	1515	19	踏跡	口縁部底片	砂粒少、黄、黄褐色。	胎土内に点状柄文を伴うC字文、口縁部の外周縁に柄文を伴う区画文に準拠した横文文部、内外面研削。先径、No18と同一個体。	真名寺2
3206	18	1515	20	踏跡	口縁部底片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	胎土内に点状柄文を伴うC字文、口縁部の外周縁に柄文を伴う区画文に準拠した横文文部、内外面研削。先径、No15と同一個体。	真名寺2
3206	18	1515	21	押跡	口縁部片	緑褐色少、黄、黄褐色。	口縁部内、外縁による横文、内外面研削。	真名寺2
3206	18	1515	22	押跡	口縁部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	口縁部外縁、並列した横文。	真名寺2
3206	18	1515	23	押跡	口縁部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文、No2と同一個体。	真名寺2
3206	18	1515	24	押跡	口縁部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文、No2と同一個体。	真名寺2
3306	18	1515	25	踏跡	口縁部底片	砂粒少、黄、黄褐色。	胎土内に点状柄文を伴うC字文、内外面研削。	真名寺2
3306	18	1515	26	踏跡	口縁部底片	砂粒中多量、黄、黄褐色。	柄文。柄文による横文、内外面研削。No27と同一個体。	真名寺2
3306	18	1515	27	踏跡	口縁部底片	砂粒中多量、黄、黄褐色。	柄文。柄文による横文、内外面研削。No26と同一個体。	真名寺2
3306	18	1515	28	踏跡	腹部片	砂粒多、黄、黄褐色。	外縁部、内外面研削。	真名寺2
3306	18	1515	29	踏跡	腹部片	砂粒多、黄、黄褐色。	胎土。外縁部、内外面研削。	真名寺2
3306	18	1515	30	踏跡	口縁部底片	砂粒多、黄、黄褐色。	口縁部-胴部研削1条、底面研削。内外面研削。研削、口径42.2、高さ44.4。	真名寺2
3406	18	1515	31	押跡	腹部片	緑褐色多量、黄、黄褐色。	外縁部、柄文。	真名寺2
3406	18	1515	32	押跡	腹部片	砂粒多、黄、黄褐色。	外縁部、外周研削。	真名寺2
3406	18	1515	33	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、内外面研削。口径、No34と同一個体。	真名寺2
3406	18	1515	34	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、内外面研削。口径、No33と同一個体。	真名寺2
3406	18	1515	35	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	並列した横文、内面研削。	真名寺2
3406	18	1515	36	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	並列した横文、外縁部。	真名寺2
3406	18	1515	37	押跡	口縁-胴部片	砂粒少、黄、褐色。	並列した横文を伴った横文文部。	真名寺2
3406	18	1515	38	押跡	口縁-胴部片	緑褐色少、黄、黄褐色。	胎土。外縁部、外周面研削。並列した横文文部、内面研削。	真名寺2
3406	18	1515	39	押跡	口縁-胴部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文文部、内面研削。	真名寺2
3406	18	1515	40	押跡	腹部片	砂粒少、黄、黄褐色。	外縁部、内外面研削。	真名寺2
3406	18	1515	41	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文文部、内外面研削。先径、No31と同一個体。	真名寺2
3406	18	1515	42	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	胎土。外縁部、外周面研削。並列した横文文部、内面研削。先径、No32と同一個体。	真名寺2
3406	18	1515	43	胎土付口付?	口縁-胴部片	緑褐色多量、黄、黄褐色。	胎土に円形の柄文突起を加える。胴土半は柱状の4単位、下半はJ字5単位。体部には赤色塗料が残り、底部は研削を伴った研削。並列した横文文部、内面研削。並列した横文文部、内外面研削。先径、No35と同一個体。外周縁に研削、口径40.0。残存高さ59.0。	真名寺2
3406	18	1515	44	胎	口縁-底面(70%)	砂粒少、黄、黄褐色。	胎土に円形の柄文突起を加える。胴土半は柱状の4単位、下半はJ字5単位。体部には赤色塗料が残り、底部は研削を伴った研削。並列した横文文部、内面研削。並列した横文文部、内外面研削。先径、No35と同一個体。外周縁に研削、口径40.0。残存高さ59.0。	真名寺2
3406	18	1515	45	押跡	口縁-胴部(70%)	砂粒多、黄、黄褐色。	縦位輪帯1条、胴部研削6条(5条残存)。交代に円形柄文付、内外面研削。胎土。口径47.7、高さ59.0。残存高さ7.0。	真名寺2
3506	18	1515	46	押跡	口縁-底面	砂粒多、黄、黄褐色。	口縁部突起、口縁部、口縁部、縦位輪帯。縦位輪帯に外縁部、内外面研削。口径(25.0)。残存高さ28.8。底径(15.0)。	真名寺2
3606	18	1515	47	押跡	口縁-底面(40%)	砂粒多、黄、黄褐色。	口縁部突起、口縁部、口縁部、縦位輪帯。縦位輪帯に外縁部、内外面研削。口径(25.0)。残存高さ28.8。底径(15.0)。	真名寺2
3606	18	1515	48	押跡	口縁-底面(15%)	砂粒多、黄、黄褐色。	口縁部突起、口縁部、口縁部、縦位輪帯。縦位輪帯に外縁部、内外面研削。口径40.0。残存高さ59.0。	真名寺2
3606	18	1515	49	押跡	口縁-胴部	砂粒多、黄、黄褐色。	縦位輪帯1条、胴部に縦位輪帯、交代に円形柄文付、並列した横文文部による横文文部、内外面研削。口径、No36と同一個体。	真名寺
3606	18	1515	50	押跡	腹部片	砂粒多、黄、黄褐色。	短小な伴う複位輪帯1条、円形柄文付より縦位輪帯、並列した横文文部、外周面研削。内外面研削。	真名寺
3606	18	1515	51	押跡	腹部片	砂粒多、黄、黄褐色。	短小な伴う複位輪帯、外周面研削。	真名寺
3606	18	1515	52	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。	真名寺
3606	18	1515	53	押跡	腹部片	砂粒中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。	真名寺
3606	18	1515	54	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	外縁部、並列した横文文部、内面、外周無文部研削。	真名寺
3606	18	1515	55	押跡	腹部片(25%)	砂粒多、黄、明褐色。	外周面研削。	真名寺
3606	18	1515	56	押跡	口縁-胴部	砂粒多、黄、黄褐色。	胎土。内外の縁部でB字文を構成、外周面研削。口径(37.3)。残存高さ29.0。	真名寺
3706	18	1515	57	押跡	腹部片	緑褐色少、黄、褐色。	胎土。外縁部、外周面研削。並列した横文文部、内面研削。	真名寺
3706	18	1515	58	押跡	腹部片	砂粒多、黄、黄褐色。	胎土。外縁部、外周面研削。並列した横文文部、内面研削。	真名寺
3706	18	1515	59	押跡	腹部片	緑褐色中多量、黄、黄褐色。	胎土。外縁部、外周面研削。並列した横文文部、内面研削。	真名寺
3706	18	1515	60	押跡	口縁-胴部片	砂粒中多量、黄、黄褐色。	胎土。外縁部、外周面研削。並列した横文文部、内面研削。	真名寺
3706	18	1515	61	押跡	口縁-胴部片	砂粒中多量、黄、黄褐色。	胎土。外縁部、外周面研削。並列した横文文部、内面研削。	真名寺
3706	18	1515	62	押跡	口縁-底面(60%)	砂粒多、黄、黄褐色。	口縁部に1層または2層の黄色小突起がつく、口縁部に縦位輪帯1条、口径(59.4)。残存高さ27.5。	真名寺
3706	18	1515	63	押跡	口縁-底面(20%)	砂粒少、黄、黄褐色。	並列した横文文部、底面使用により研削。無文部と内面研削。先径、残存高さ28.4。	真名寺
3806	18	1515	64	踏跡	胴部(40%)	砂粒少、黄、黄褐色。	胎土。外縁部、外周面研削。並列した横文文部、内面研削。口径(22.2)。外周縁に研削、口径残存18.0。	真名寺2

遺物観察表

坑数	区	坑番号	層位	残存状態	胎土・模成・色調	形状・文様の特徴、計測値(単位:cm、1は既定値)	時期・備考	
6008	18	6	9	埋没	腹片片	砂粒や中多, 貝, 褐色。	沈積による腐文, 卑土, 片瓦文化層, 内外面研磨。	編之西1
6008	18	6	10	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 土に黄褐色。	沈積, 内外面研磨。	編之西1
6008	18	6	11	埋没	腹片片	砂粒中多, 褐色。	沈積, 土質上層文化層。	編之西1
6008	18	6	12	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 褐色。	縦状残線, 内外両面研磨。	編之西1
6008	18	6	13	埋没	腹片片	沈積, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面。	沈積, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面。	編之西1
6008	18	6	14	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 褐色。	其残文, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面, 内外面無文部手。劣。	編之西2
6008	18	6	15	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 褐色。	片瓦文化層, 内外両面研磨。	編之西2
6008	18	6	16	埋没	胴一側面片	砂粒多, 貝, 土に黄褐色。	沈積, 卑土, 片瓦文化層, 胴面に横状筋が平行し, 内外両面研磨。4, 胴口上, 25配合点, 29配合点見合, 4, 胴口点, 25配合点と胴一側面。	編之西1
6186	18	6	17	埋没	胴一側面片	砂粒非常多, 貝, 顔赤褐色 (30%)	横状残線3条, 卑土, 片瓦文化層, 胴口上, 4, 胴口点見合, 4, 胴口点, 27配合点見合, 1口徑40.0, 残存筋43.5, 4, 胴口点見合, 4, 胴口点, 27配合点と胴一側面。	編之西1
6186	18	6	18	埋没	胴一側面片	砂粒多, 貝, 土に黄褐色。	小波紋口縁, 胴面に横状筋1条, 胴口上縦文, 内外両面研磨。口徑42.0, 残存筋19.4, 4, 胴口点見合。	編之西1
6228	18	6	19	埋没	口縁部片	砂粒多, 貝, 黄褐色。	横文及縦文, 口縁部外側に筋があり, 内外両面研磨。	後期
6228	18	6	20	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 黄褐色。	横文及縦文, 内外両面研磨。	後期
6228	18	6	21	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 黄褐色。	横文及縦文, 内外両面研磨。	後期
6228	18	6	22	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	沈積, 卑土, 片瓦文化層, 胴口上, 内外両面研磨。	編之西1
6228	18	6	23	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	沈積, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	24	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	25	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	26	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	27	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	28	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	29	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	30	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	31	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	32	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	33	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	34	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	35	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	36	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	37	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	38	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	39	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	40	埋没	腹片片	砂粒多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	41	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	42	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	43	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	44	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	45	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	46	埋没	腹片片	砂粒中多, 貝, 黄褐色。	口縁部に横状残線1条, 胴部に縦状残線, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨, 劣。	編之西1
6228	18	6	47	埋没	胴一側面片	砂粒少, 貝, 褐色。	突起的な形状, 内外両面研磨。口徑33.2。	編之西1
6228	18	6	48	埋没	胴一側面片	砂粒少, 貝, 褐色。	口縁部9位隆降帯, 8位の付文, 沈積, 内外両面研磨。口徑32.0, 残存筋10.4。	編之西1
6228	18	6	49	埋没	胴一側面片	砂粒多, 貝, 土に黄褐色 (40%)	沈積による腐文, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨。	編之西1
6228	18	6	50	埋没	胴一側面片	砂粒多, 貝, 土に黄褐色 (30%)	沈積による腐文, 卑土, 片瓦文化層, 内外両面研磨。	編之西1
6228	18	6	51	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口徑11.0, 残存筋2.1。	編之西2
6228	18	6	52	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部11.0, 残存筋2.1。	編之西2
6228	18	6	53	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部11.0, 残存筋2.1。	編之西2
6228	18	6	54	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部9位隆降帯, 8位の付文, 沈積, 内外両面研磨。口徑32.0, 残存筋10.4。	編之西1
6228	18	6	55	埋没	胴一側面片	砂粒多, 貝, 土に黄褐色。	横状残線, 口縁部11.0, 残存筋2.1。	編之西1
6228	18	6	56	埋没	胴一側面片	砂粒中多, 貝, 褐色。	横状残線, 口縁部11.0, 残存筋2.1。	編之西1
6228	18	6	57	埋没	胴一側面片	砂粒多, 貝, 褐色。	口縁部から筋を作った縦位隆降帯, 内外両面研磨。付文不明。卑土, 片瓦文化層, 無文層, 内外両面研磨。	編之西1
6228	18	6	58	埋没	胴一側面片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部から筋を作った縦位隆降帯, 内外両面研磨。付文不明。卑土, 片瓦文化層, 無文層, 内外両面研磨。	編之西1
6228	18	6	59	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部8位隆降帯, 8位の付文, 沈積, 内外両面研磨。口徑18.7, 残存筋7.4。	編之西1
6228	18	6	60	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 土に黄褐色。	口縁部8位隆降帯, 8位の付文, 沈積, 内外両面研磨。口徑18.7, 残存筋7.4。	編之西1
6228	18	6	61	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部8位隆降帯, 8位の付文, 沈積, 内外両面研磨。口徑18.7, 残存筋7.4。	編之西1
6228	18	6	62	埋没	口縁部片	砂粒中多, 貝, 褐色。	口縁部8位隆降帯, 8位の付文, 沈積, 内外両面研磨。口徑18.7, 残存筋7.4。	編之西1

遺物観察表

国産	区	編號番号	部種	残存状態	胎土・焼成・色調	形状・文様の特徴	計測値(単位:cm、1/10指定)	時期・備考
14098	29	6位	44	漆鉢	口縁部	砂粒や中多, 且, 土に黄褐色。	胎土黄色, 口縁部凸孔, 横状紋, 胎土多量付随状態。	朝之内1
14098	29	6位	45	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	胎土黄色, 横状紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14098	29	6位	46	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	胎土黄色, 横状紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14098	29	6位	47	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	胎土黄色, 横状紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14098	29	6位	48	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 明褐色。	胎土黄色, 横状紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14098	29	6位	49	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	胎土黄色, 横状紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14098	29	6位	50	漆鉢	底面(20%)	細砂粒中多, 且, 褐色。	胎土黄色, 横状紋, 胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 卑部1, 尺貫文文様, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14098	29	6位	51	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 灰褐色。	横状紋3条, 胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14098	29	6位	52	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	卑部1, 尺貫文文様, 8字紋付, 胎土を中心とした横紋。	朝之内1
14098	29	6位	53	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	胎土を中心とした横紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14098	29	6位	54	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	横状紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14118	29	6位	55	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 内外, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14118	29	6位	56	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 褐色。	横状紋, 卑部1, 尺貫文文様, 内外, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14118	29	6位	57	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	横状紋, 卑部1, 尺貫文文様, 内外面研磨, No6と同一個体。	朝之内1
14118	29	6位	58	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	横状紋, 卑部1, 尺貫文文様, 内外, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14118	29	6位	59	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 明褐色。	横状紋, 胎土, 内外研。	朝之内1
14118	29	6位	60	漆鉢	底面(10%)	細砂粒中多, 胎土含む, 且, 褐色褐色。	横状紋, 内外面研磨, 光沢, 直径17.0, No57と同一個体。	朝之内1
14118	29	6位	61	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	口縁部横状紋1条, 内外面研磨, 横状紋, 内外研磨, 口径23.21。	朝之内2
14118	29	6位	62	漆鉢	底面(20%)	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土を中心とした横紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内2
14118	29	6位	63	漆鉢	口縁部	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	胎土を中心とした横紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内2
14118	29	6位	64	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 明褐色。	胎土を中心とした横紋, 内外面研磨, 口径18.0, 横径15.0, 口縁部横状紋, 沈降による瓦崩, 胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 内外面研磨, 光沢。	加賀野B1
14118	29	6位	65	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 明褐色。	胎土を中心とした横紋, 内外面研磨, 口径18.0, 横径15.0, 口縁部横状紋, 沈降による瓦崩, 胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 内外面研磨, 光沢。	加賀野B2
14118	29	6位	66	漆鉢	口縁部片	細砂粒中多, 且, 明褐色。	胎土を中心とした横紋, 内外面研磨, 光沢。	朝之内1
14218	29	6位	67	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	口縁部横状紋, 胎土, 内外面研磨, 光沢。	加賀野B
14218	29	6位	68	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 4割以上埋合。	後期
14218	29	6位	69	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 横状紋, 胎土による瓦崩。	後期
14218	29	6位	70	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 光沢。	後期
14218	29	6位	71	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 光沢。	後期
14218	29	6位	72	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 光沢。	後期
14218	29	6位	73	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 黄褐色。	胎土, 内外面研磨, 光沢。	後期
14218	29	6位	74	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径11.0。	後期
14218	29	6位	75	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 明褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.5, 横径110.8。	後期
14218	29	6位	76	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.5, 横径110.8。	後期
14218	29	6位	77	土器片	定形	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径14.5, 厚さ3.0。	朝野寺1
14218	29	6位	78	土器片	50%	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径13.0, 厚さ3.0。	朝野寺2
14218	29	6位	79	土器片	定形	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径3.4, 厚さ3.0。	後期

29区7号住居 土器観察表								
国産	区	編號番号	部種	残存状態	胎土・焼成・色調	形状・文様の特徴	計測値(単位:cm、1/10指定)	時期・備考
14698	29	7位	1	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 黒褐色。	横状紋, 内外面研磨, 光沢。	五郎寺?
14698	29	7位	2	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14698	29	7位	3	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14698	29	7位	4	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14698	29	7位	5	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14698	29	7位	6	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14698	29	7位	7	土器片	定形	細砂粒中多, 且, 土に黄褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1

29区8号住居 土器観察表								
国産	区	編號番号	部種	残存状態	胎土・焼成・色調	形状・文様の特徴	計測値(単位:cm、1/10指定)	時期・備考
14998	29	8位	1	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	2	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	3	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	4	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	5	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	6	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	7	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	8	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	9	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	10	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	11	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	12	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	13	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1
14998	29	8位	14	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径18.0。	朝野寺1

29区18号住居, 6号可住 土器観察表								
国産	区	編號番号	部種	残存状態	胎土・焼成・色調	形状・文様の特徴	計測値(単位:cm、1/10指定)	時期・備考
15398	29	18位	1	漆鉢	口縁部(30%)	細砂粒中多, 且, 土に赤褐色。	口縁部横状紋1条, 胎土研削付, 胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 一帯横状紋を伴う, 胎土, 卑部1, 尺貫文文様, 内外面研磨, 光沢。	加賀野A4-1
15398	29	18位	2	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	3	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	4	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	5	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	6	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	7	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	8	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	9	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	10	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	11	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	12	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	13	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	14	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1
15398	29	18位	15	漆鉢	胎土	細砂粒中多, 且, 赤褐色。	胎土, 内外面研磨, 口径28.0, 横径12.2。	朝野寺1

遺物観察表

採取区	編號	層位	種類	残存状態	胎土・胎色・色調	胎形・文様の特徴、計測値(単位:cm、()は推定値)	時期・備考	
154R	29	18H	16	厚鉢	胎土やや多、且、にふい體色。	胎形不定、改竄文、再突形胎。	株名守之	
154R	29	18H	17	厚鉢	胎土多、且、黒褐色。	改竄文、内外面研磨。	株名守之	
154R	29	18H	18	口縁部片	砂粒多、且、褐色。	横位残存1条、内外面粗い研磨。	株名守	
154R	29	18H	19	厚鉢	口縁部片	胎土多、且、にふい褐色。	胎形不定、内外面やや粗い研磨。	株名守
154R	29	18H	20	厚鉢	口縁部片	胎土多、且、褐色。	横位残存1条、内外面やや粗い研磨。	株名守
154R	29	18H	21	厚鉢	口縁一部破片	砂粒やや多、且、褐色。	口縁部、外へ引り延び、内外面やや粗い研磨。	株名守
154R	29	18H	22	厚鉢	胎土片	胎土多、且、黒褐色。	胎形不定、内外面研磨。	株名守
154R	29	18H	23	厚鉢	胎土片	砂粒多、且、黒褐色。	胎形不定、内外面やや粗い研磨。	株名守
154R	29	18H	24	厚鉢	口縁部片	胎土多、且、にふい褐色。	胎形不定、内外面横位残存之条、内外面研磨。	胎之内1
154R	29	18H	25	厚鉢	胎土片	砂粒やや多、且、褐色。	改竄文、胎形不定、胎土不定、内外、外面英文研磨。	胎之内1
154R	29	18H	26	厚鉢	口縁一部破片	胎土多、且、黒褐色。	横位残存1条、胎土不定、胎形不定、内外面やや粗い研磨。	胎之内1
154R	29	18H	27	厚鉢	胎土片	胎土多、且、黒褐色。	横位残存による以内、横位形状残存、内外面やや粗い研磨。	加曾朝臣
154R	29	18H	28	厚鉢	口縁部片	砂粒多、且、にふい褐色。	内外面やや粗い研磨。	後期
154R	29	18H	29	厚鉢	底面片	砂粒多、且、にふい褐色。	底面研(10%)、上付残存、底径9.5。	後期
154R	29	18H	30	厚鉢	底面(10%)	砂粒やや多、且、粗末褐色。	胎形不定、改竄文、胎形不定、上付残存、底径6.0。	後期
154R	29	18H	31	釣手付盛	胎土片	砂粒少、且、黒褐色。	横位残存、内外面ア、内外面研磨、文字。	後期前半
156R	29	6配	1	厚鉢	胎土片	胎土多、且、黒褐色。	横位残存、胎形不定、胎土不定、内外面研磨。	加曾朝臣2
156R	29	6配	2	厚鉢	口縁一部破片	砂粒少、且、黒褐色。	胎形不定、胎土不定、口縁内面形状、口縁部に胎名、改竄文、以切り文、胎形不定。	加曾朝臣2
156R	29	6配	3	厚鉢	口縁部片	砂粒多、且、黒褐色。	口縁残存、改竄文、内外面研磨。	高井里
156R	29	6配	4	厚鉢	胎土片	砂粒多、且、褐色。	胎形不定、胎土不定。	高井里
156R	29	6配	5	厚鉢	胎土片	砂粒多、且、褐色。	胎形不定、胎土不定。	後期

遺物観察表

採取番号	区	調査番号	遺種	残存	計測値 (X線CT分析)の重量 (単位:mg/g) (±標準偏差)	石材	備考
620R	18	6	21 石皿	破片	144.0 110.0 78.0	1,271.0	黒麻石(石山荘)
620R	18	6	22 石皿	一部欠損	46.0 20.0 12.0	7.6	黒麻石(石山荘)
620R	18	6	23 打製石片	完形	111.5 50.0 18.5	103.7	黒麻石(石山荘)
620R	18	6	24 打製石片	ほぼ完形	94.0 52.0 32.0	127.5	黒麻石(石山荘)
620R	18	6	25 打製石片	70%	100.0 60.0 18.0	138.5	灰色石
620R	18	6	26 打製石片	70%	98.0 67.0 38.0	162.0	ナギナト
630R	18	6	27 台石	一部欠損	343.0 314.0 116.0	20,400.0	黒麻石(石山荘)
630R	18	6	28 多孔石	完形	620.0 324.0 240.0	—	黒麻石(石山荘)
640R	18	5	—	—	118.0 98.0 33.0	683.8	黒麻石(石山荘)
650R	18	5	6 磨製石片	完形	72.0 46.0 12.0	59.7	黒麻石
650R	18	5	5 磨製石片	ほぼ完形	112.0 50.0 26.0	238.9	黒麻石
650R	18	5	7 磨製石片	完形	81.0 48.0 18.0	176.0	黒麻石
650R	18	5	8 磨製石片	完形	101.0 61.0 30.0	274.2	黒麻石(石山荘)
650R	18	5	9 磨製石片	完形	113.0 92.0 57.0	808.4	黒麻石(石山荘)
650R	18	5	10 磨製石片	完形	112.0 107.0 66.0	1,000.1	黒麻石(石山荘)
650R	18	31	2 磨製石片	完形	82.5 29.0 9.5	42.4	灰石
660R	18	31	3 多孔石	70%	168.0 182.0 121.0	5,200.0	黒麻石(石山荘)
660R	18	32	1 石皿	破片	399.0 182.0 148.0	291.8	黒麻石(石山荘)

19区27号住居、18区23号配石 石皿観察表

採取番号	区	調査番号	遺種	残存	計測値 (X線CT分析)の重量 (単位:mg/g) (±標準偏差)	石材	備考
770R	19	27	68 石製未製品	—	23.5 1 5.2	1.1	黒曜石
770R	19	27	69 磨石	完形	120.0 73.5 41.0	650.0	黒麻石(石山荘)
770R	19	27	70 磨石	ほぼ完形	83.0 91.0 37.0	400.0	黒麻石(石山荘)
770R	19	27	71 磨石	完形	110.0 118.0 63.0	145.5	黒麻石(石山荘)
800R	18	23	16 打製石片	完形	198.0 48.0 16.0	89.0	黒麻石(石山荘)
800R	18	23	17 磨石	完形	126.0 92.0 60.5	1,031.7	黒麻石(石山荘)
800R	18	23	18 多孔石	完形	167.0 118.0 85.0	2,000.0	黒麻石(石山荘)
800R	18	23	19 多孔石	一部欠損	116.0 110.0 48.3	715.2	黒麻石(石山荘)

19区40号住居 石皿観察表

採取番号	区	調査番号	遺種	残存	計測値 (X線CT分析)の重量 (単位:mg/g) (±標準偏差)	石材	備考
860R	19	40	32 石皿	一部欠損	19.0 10.0 2.5	0.3	碧玉
860R	19	40	33 磨石	完形	92.0 71.0 21.0	114.1	黒麻石(石山荘)
860R	19	40	34 磨石	80%	117.0 103.0 33.0	87.3	黒麻石(石山荘)
860R	19	40	35 磨石	完形	89.0 72.0 66.0	629.2	黒麻石(石山荘)
860R	19	40	36 磨石	完形	122.0 84.0 41.8	673.2	石山荘製
870R	19	40	37 多孔石	完形	181.0 198.0 83.0	713.1	黒麻石(石山荘)
870R	19	40	38 多孔石	完形	218.0 157.5 116.0	5,600.0	黒麻石(石山荘)

18区11号住居 石皿観察表

採取番号	区	調査番号	遺種	残存	計測値 (X線CT分析)の重量 (単位:mg/g) (±標準偏差)	石材	備考
930R	28	11	12 磨石	完形	88.0 48.1 79.1	228.3	黒麻石(石山荘)

28区17号住居 石皿観察表

採取番号	区	調査番号	遺種	残存	計測値 (X線CT分析)の重量 (単位:mg/g) (±標準偏差)	石材	備考
930R	28	17	7 多孔石	完形	270.5 172.5 121.5	5,300.0	黒麻石(石山荘)
930R	28	17	8 多孔石	完形	241.0 194.0 133.5	4,540.0	黒麻石(石山荘)

28区18号住居、10-11号住居、10号配石 石皿観察表

採取番号	区	調査番号	遺種	残存	計測値 (X線CT分析)の重量 (単位:mg/g) (±標準偏差)	石材	備考
970R	28	18	13 石皿	完形	15.0 13.0 2.6	0.4	黒曜石
970R	28	18	14 打製石片	60%	68.0 42.1 9.9	30.6	安山石
970R	28	18	15 打製石片	80%	395.4 46.3 14.7	77.6	黒麻石(石山荘)
970R	28	18	16 磨石	完形	33.5 46.0 10.5	14.0	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
980R	28	18	17 磨石	完形	125.0 114.0 40.0	901.9	黒麻石(石山荘)
980R	28	18	18 磨石	完形	85.0 67.0 34.6	329.8	黒麻石(石山荘)
980R	28	11	3 磨石	完形	68.0 39.0 18.0	37.7	黒色安山石
990R	28	11	4 磨石	完形	147.0 124.0 130.0	3,100.0	黒麻石(石山荘)
990R	28	16	3 石皿	80%	17.0 11.0 2.1	0.3	ナギナト
990R	28	16	9 石皿	一部欠損	62.0 17.0 3.6	1.2	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
990R	28	16	10 石皿	完形	38.5 19.5 8.5	5.3	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
990R	28	16	11 石皿	完形	37.5 24.0 14.5	10.3	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
1000R	28	16	12 石皿	完形	37.0 21.0 12.0	6.5	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
1000R	28	16	13 石皿	完形	30.5 19.0 7.8	3.2	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
1000R	28	16	14 石皿	完形	20.0 11.5 4.0	1.0	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
1000R	28	16	15 磨石	完形	82.0 21.0 8.0	5.4	黒色安山石
1000R	28	16	16 磨石	完形	28.0 46.0 20.5	27.6	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)

28区20号住居 石皿観察表

採取番号	区	調査番号	遺種	残存	計測値 (X線CT分析)の重量 (単位:mg/g) (±標準偏差)	石材	備考
1060R	28	20	44 石皿	一部欠損	15.6 12.3 2.1	0.4	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
1060R	28	20	45 打製石片	完形	133.0 92.3 17.6	135.7	黒麻石(石山荘)
1060R	28	20	46 磨石	—	52.0 40.5 17.0	27.9	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
1060R	28	20	47 石皿	—	62.5 79.5 43.0	205.3	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
1060R	28	20	48 磨石	短縮	81.0 51.0 29.0	201.9	黒麻石(石山荘)
1060R	28	20	49 磨石	一部欠損	83.0 72.6 66.2	426.2	黒麻石(石山荘)

28区3号住居 石皿観察表

採取番号	区	調査番号	遺種	残存	計測値 (X線CT分析)の重量 (単位:mg/g) (±標準偏差)	石材	備考
1180R	29	3	124 石皿	完形	18.7 13.7 1.9	0.3	黒曜石
1180R	29	3	125 石皿	完形	18.8 12.5 2.3	0.4	碧玉
1180R	29	3	126 石皿	一部欠損	15.1 11.4 2.4	0.3	黒曜石
1180R	29	3	127 石皿	一部欠損	16.4 13.8 2.4	0.5	碧玉
1180R	29	3	128 石皿	完形	19.4 14.8 3.8	0.9	黒曜石
1180R	29	3	129 石皿	完形	16.1 7.6 3.7	0.3	黒曜石
1180R	29	3	130 石皿	80%	17.3 15.8 3.7	0.9	黒曜石
1180R	29	3	131 石皿	60%	16.4 4.5 3.3	0.3	珪質黄頁岩(珪酸岩質麻炭灰)
1180R	29	3	132 石皿	—	24.1 24.0 16.5	7.5	黒曜石
1180R	29	3	133 石皿	—	27.0 18.5 15.0	5.7	黒曜石
1180R	29	3	134 打製石片	完形	91.0 63.2 14.1	82.0	黒色安山石
1180R	29	3	135 打製石片	80%	92.5 68.0 21.0	146.8	黒色安山石

遺物取表表

採取 番号	区	採取番号	遺物	残存	計測値 (0.1g×30個測定3点重量 (単位:mg.±)は測定値)	石材	備考	
118号	29	3区 136	打撃片	80%	117.5 489.0 116.5	156.1	黒松櫨石安山岩	軽部
118号	29	3区 137	石核	100%	127.0 83.0 81.0	81.0	輝石	断面の形状
118号	29	3区 138	石核	完全	250.0 139.0 120.0	6,500.0	黒松櫨石安山岩	大型
118号	29	3区 139	磨石	ほぼ完全	116.0 90.0 61.7	959.1	黒松櫨石安山岩	西面凹み
118号	29	3区 140	磨石	完全	125.0 165.9	708.0	黒松櫨石安山岩	西面凹み
118号	29	3区 141	磨石	完全	85.0 78.0 50.0	504.6	黒松櫨石安山岩	西面凹み
118号	29	3区 142	磨石	完全	131.0 96.0 47.0	889.3	黒松櫨石安山岩	西面凹み
118号	29	3区 143	磨石	ほぼ完全	117.0 71.0 29.7	402.1	黒松櫨石安山岩	西面に凹み、基部に痕行あり
118号	29	3区 144	磨石	完全	137.0 59.0 44.0	565.0	黒松櫨石安山岩	柱状片、基部に凹み、基部に痕行あり
120号	29	3区 145	作石	ほぼ完全	260.0 275.0 84.0	10,300.0	黒松櫨石安山岩	
120号	29	3区 146	石核	50%	195.5 222.5 89.0	4,870.0	黒松櫨石安山岩	西面凹み
120号	29	3区 147	石核	完全	138.1 177.0 139.0	5,400.0	黒松櫨石安山岩	
121号	29	3区 148	石核	一茶欠損	150.0 114.0 84.0	780.0	黒松櫨石安山岩	
121号	29	3区 149	多孔石	ほぼ完全	203.5 188.5 93.0	5,600.0	黒松櫨石安山岩	
122号	29	3区 150	石核	40%	(296.0)(138.0)(137.0)	9,200.0	緑色片岩	西面凹み
122号	29	3区 151	石核	破片	98.0(1) 62.0(1) 59.0(1)	93.1	緑色片岩	
122号	29	3区 152	石核	完全	270.0 31.5 29.0	496.0	緑色片岩	有損

29区4号住居、1-2号河石 石物取表表

採取 番号	区	採取番号	遺物	残存	計測値 (0.1g×30個測定3点重量 (単位:mg.±)は測定値)	石材	備考	
229号	29	4区 67	石核	80%	23.7 13.7 2.3	1.0	黒曜石	基部は波打、溝ノ字状
229号	29	4区 68	石核	完全	21.0 15.5 7.0	2.4	黒曜石	石核基部に凹み
229号	29	4区 69	石核	90%	14.7 11.9 6.8	0.3	黒曜石	つまみあり
229号	29	4区 70	石核	-	31.0 36.5 18.2	22.5	黒曜石	No.7と重合
229号	29	4区 71	石核	-	33.0 41.4 44.0	23.9	黒曜石	No.7と重合
229号	29	4区 72	軽石製品	80%	100.0 56.5 15.0	21.8	軽石	
229号	29	4区 73	磨石	70%	(97.4) 46.1 26.9	223.7	軟砂岩	
229号	29	4区 74	磨石	40%	(86.0) 69.5 36.0	52.2	軟砂岩	
229号	29	4区 75	磨石	60%	(64.5) 53.5 17.0	45.3	軟砂岩	
309号	29	4区 76	磨石	完全	73.0 64.0 57.9	384.9	黒松櫨石安山岩	
309号	29	4区 77	磨石	完全	121.0 84.0 57.3	845.2	黒松櫨石安山岩	
309号	29	4区 78	磨石	完全	150.0 136.0 126.0	3,040.0	黒松櫨石安山岩	
309号	29	4区 79	磨石	ほぼ完全	118.0 91.0 77.0	453.6	多孔質安山岩	
309号	29	4区 80	磨石	完全	125.3 51.2 34.4	300.3	黒松櫨石安山岩	
309号	29	4区 81	磨石	完全	156.0 65.0 54.8	792.1	黒松櫨石安山岩	
309号	29	4区 82	磨石	完全	94.0 64.0 83.0	1,088.6	黒松櫨石安山岩	
309号	29	4区 83	磨石	70%	123.0 92.0 45.4	557.2	黒松櫨石安山岩	
309号	29	4区 84	多孔石	完全	313.0 271.5 172.0	15,600.0	黒松櫨石安山岩	
309号	29	4区 85	磨石	完全	60.0 60.0 60.0	18.5	軟砂岩	
309号	29	1区 13	磨石	ほぼ完全	169.0 80.0 44.0	765.5	黒松櫨石安山岩	西面に凹み、基部に痕行あり
309号	29	1区 14	磨石	90%	132.0 178.0 39.0	633.7	黒松櫨石安山岩	
309号	29	1区 15	石核	ほぼ完全	86.0 65.0 81.0	430.9	黒松櫨石安山岩	
309号	29	2区 8	石核	完全	15.0 11.5 2.9	0.2	黒曜石	
309号	29	2区 8	石核	-	65.1 28.0 20.5	26.1	黒曜石	基部は波ノ字状
309号	29	2区 9	多孔石	90%	(167.0)(113.0)(101.0)	2,110.0	黒松櫨石安山岩	

29区6号住居 石物取表表

採取 番号	区	採取番号	遺物	残存	計測値 (0.1g×30個測定3点重量 (単位:mg.±)は測定値)	石材	備考	
424号	29	6区 80	石核	完全	14.3 12.1 2.5	0.3	黒曜石	基部は波ノ字状
424号	29	6区 81	石核	完全	17.5 12.1 2.5	0.4	黒曜石	基部は波ノ字状
424号	29	6区 82	打撃片	完全	15.0 12.5 4.5	0.0	黒曜石	基部はほぼ平坦
424号	29	6区 83	石核	一茶欠損	(13.0)	0.0	黒曜石	断面形状(複製片複製区別)
424号	29	6区 84	打撃片	60%	56.0 46.0 3.0	42.9	黒松櫨石安山岩	軽部
424号	29	6区 85	磨石	60%	(88.0)(45.0) 24.0	174.9	軟砂岩	
424号	29	6区 86	磨石	40%	(50.0) 43.5 17.5	58.1	軟砂岩	
424号	29	6区 87	軽石製品	完全	64.5 59.0 32.0	26.9	軽石	
424号	29	6区 88	磨石	完全	156.0 83.0 47.7	697.1	黒松櫨石安山岩	
424号	29	6区 89	磨石	完全	102.0 87.0 74.5	941.6	黒松櫨石安山岩	軽部痕行あり
424号	29	6区 90	磨石	完全	105.0 100.0 77.0	1,143.8	黒松櫨石安山岩	軽部痕行あり
424号	29	6区 91	磨石	ほぼ完全	114.0 9.0 69.0	1,046.8	黒松櫨石安山岩	
424号	29	6区 92	磨石	80%	132.0 110.5 44.5	578.9	多孔質安山岩	
424号	29	6区 93	磨石	完全	94.0 77.0 49.2	557.5	黒松櫨石安山岩	
424号	29	6区 94	磨石	60%	134.0 67.0 40.0	554.7	黒松櫨石安山岩	
424号	29	6区 95	磨石	90%	(189.0) 58.0 45.1	659.5	黒松櫨石安山岩	溝ノ字に痕行、基部痕行あり
424号	29	6区 96	磨石	一茶欠損	(204.0) 80.0 76.0	1,900.0	緑色片岩	石核を包み、石に使用、軽部痕行あり
424号	29	6区 97	磨石	ほぼ完全	499.0 445.0 89.0	25,700.0	黒松櫨石安山岩	

29区7号住居 石物取表表

採取 番号	区	採取番号	遺物	残存	計測値 (0.1g×30個測定3点重量 (単位:mg.±)は測定値)	石材	備考	
146号	29	7区 8	磨石	完全	123.5 91.9 58.9	1,017.0	黒松櫨石安山岩	
146号	29	7区 9	磨石	完全	93.0 77.0 57.5	570.9	黒松櫨石安山岩	むすびに痕行
146号	29	7区 10	磨石	ほぼ完全	231.0 119.0 60.0	2,640.0	砂岩	

29区8号住居 石物取表表

採取 番号	区	採取番号	遺物	残存	計測値 (0.1g×30個測定3点重量 (単位:mg.±)は測定値)	石材	備考	
149号	29	8区 15	石核	ほぼ完全	13.8 12.2 3.4	0.4	黒曜石	基部は波ノ字状
149号	29	8区 16	磨石	40%	(57.0) 33.0 12.0	20.9	軟砂岩	小型
149号	29	8区 17	磨石	70%	(151.0) 75.0 49.5	1,046.0	軟砂岩	大型
149号	29	8区 18	石核	60%	(167.0) 85.0 44.0	1,243.2	緑色片岩	
149号	29	8区 19	多孔石	70%	185.0 134.0 117.5	3,690.0	黒松櫨石安山岩	

29区18号住居、6号倉庫 石物取表表

採取 番号	区	採取番号	遺物	残存	計測値 (0.1g×30個測定3点重量 (単位:mg.±)は測定値)	石材	備考	
556号	29	18区 32	石核	ほぼ完全	21.0 15.3 2.7	0.8	黒曜石	
556号	29	18区 33	石核	完全	19.5 18.5 6.5	2.3	緑色片岩	
556号	29	18区 34	軽石製品	完全	61.0 36.0 13.0	14.2	軽石	右側木製品と重合?
556号	29	18区 35	石核	完全	102.0 81.0 80.0	1,067.3	黒松櫨石安山岩	
556号	29	18区 36	石核	70%	(96.0) 67.0 40.0	600.0	黒松櫨石安山岩	
556号	29	18区 37	多孔石	完全	230.1 140.3 77.0	2,820.0	黒松櫨石安山岩	
556号	29	6区 6	石核	完全	34.0 25.5 8.0	8.9	黒色片岩	つまみあり
556号	29	6区 7	石核	50%	(287.0)(1103.0) 85.0	4,000.0	緑色片岩	
556号	29	6区 8	多孔石	ほぼ完全	385.0 319.0 118.0	14,950.0	黒松櫨石安山岩	

抄 録

書名ふりがな	よこかべなかむらいせきかつこはちじょうもんじだいこうきじゅうきよへんいち
書名	横壁中村遺跡(8) 縄文時代後期住居編1
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	29
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	462
編著者名	黒澤照弘、藤巻幸男、檜崎修一郎
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20090325
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北楯町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	よこかべなかむらいせき
遺跡名	横壁中村遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまくんながのはらまちおおあぎよこかべ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字横壁
市町村コード	10424
遺跡番号	24
北緯(日本測地系)	363210
東経(日本測地系)	1384025
北緯(世界測地系)	363221
東経(世界測地系)	1384013
調査期間	19960401-20061231
調査面積	30000
調査原因	ダム建設
種別	集落
主な時代	縄文/弥生/平安/中世/近世
遺跡概要	縄文-住居17+列石6+配石5-縄文土器+石器
特記事項	縄文時代中期から後期までの拠点的な集落。
要約	吾妻川右岸段丘上に位置する、縄文時代から近世までの複合遺跡。検出された遺構のうち、調査区中央を南北に走行する山根沢の東側で検出された縄文時代後期の住居17軒と伴う列石、配石について報告している。注目される縄文時代の遺物として、長野県や新潟県地域の縄文土器がある。